

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた
幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続を目指して

スタートカリキュラム (吉田町モデル)

新学習指導要領対応



平成31年3月
吉田町教育委員会



吉田町教育長
栗林芳樹

ごあいさつ

平成 29 年 3 月 31 日、これからの時代に求められる教育の実現に向け、必要となる教育課程の基準を大綱的に定めた新しい学習指導要領が公示されました。

新しい学習指導要領においては、資質・能力の三つの柱である「知識及び技能の習得」、「思考力、判断力、表現力等の育成」、「学びに向かう力、人間性等の涵養」が偏りなく実現されることが求められており、各教科等における教育目標や内容が、資質・能力の三つの柱を踏まえて整理されています。また、同時に改訂された幼稚園教育要領及び保育所保育方針においても、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱から構成される資質・能力を一体的に育むように努めることを示し、幼児期の教育の特質を踏まえ、ねらいや内容を領域別に示しつつ、資質・能力の三つの柱に沿って内容の見直しが図られています。また、幼児期の教育を通して資質・能力の三つの柱に沿って内容の見直しが図られています。

これらにより、幼稚園・保育所と小学校、さらには中学校、高等学校まで、縦のつながりで見通していくことができるようになりました。

さらに、小学校学習指導要領第 1 章総則「第 2 教育課程の編成」では、「4 学校段階等間の接続」が新設され、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすることが示されるなど、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の実現が求められています。

しかしながら、遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく異なり、その接続は決して容易ではありません。この課題に応える具体的な手立てとして、「小学校学習指導要領解説生活編」で示されているのが、スタートカリキュラムです。

こうした状況を踏まえ、これまで吉田町では、「吉田町幼児教育カリキュラム」、「吉田町幼児教育カリキュラム（教師・保育士用指導書）」を策定してまいりました。そしてこの度これまでの取組を小学校へ円滑に引き継いでいくため、各小学校における実践に基づき、「スタートカリキュラム（吉田町モデル）」を策定いたしました。

今後、この「スタートカリキュラム（吉田町モデル）」を活用し、各小学校が実情に合わせた教育を実践していくことにより、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえた教育活動が充実し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能とする教育課程の実現につながることを願っております。

結びに、本スタートカリキュラムの策定に当たり、全体を通じて御指導くださいました、千葉大学教授の松崎洋子先生をはじめ、吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会の委員の皆様には厚く御礼申し上げます。

平成 31 年 3 月

目 次

1	スタートカリキュラム（吉田町モデル）の作成の目的	P 1
2	スタートカリキュラム（吉田町モデル）に基づいた教育を実施する施設	P 1
3	スタートカリキュラム（吉田町モデル）の特色	P 1
4	スタートカリキュラム（吉田町モデル）の完成までの流れ	P 3
5	スタートカリキュラム（吉田町モデル）の活用及び効果的な実践	P 5
6	吉田町幼児教育カリキュラムとスタートカリキュラムのイメージ	P 7
7	スタートカリキュラム（吉田町モデル）	P 8
8	なかよしタイム・わくわくタイムの詳細説明	P13
9	平成 30 年度の実践事例について	P20
	Ⅰ 自彊小学校	P21
	Ⅱ 住吉小学校	P23
	Ⅲ 中央小学校	P25
10	学習指導案（例）	P27
11	吉田町幼児教育カリキュラム （ステップごとの「育てたい子供の姿」と「指導の留意点」）	P33
12	「育てたい子供の姿」と「幼児期の終わりまでに育てほしい子どもの姿」の一覧表	P38
13	ピーナッツプロフィール	P39
14	資質・能力の三つの柱に沿った、幼児教育において育みたい資質・能力の整理イメージ	P40
15	国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定事業について	P41
16	スタートカリキュラム（吉田町モデル）検討会の委員の紹介	P47
17	吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会の委員の紹介	P47

1 スタートカリキュラム（吉田町モデル）の作成の目的

平成 29 年 3 月に改訂された学習指導要領においては、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むため、全ての教科等の目的及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。また、同じく改訂された幼稚園教育要領や改定された保育所保育指針においても、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱から構成される資質・能力を一体的に育むように努めることを示し、幼児期の教育の特質を踏まえ、資質・能力の三つの柱に沿って内容の見直しが図られています。

このように、今回改訂された学習指導要領においては、各教科等個別の学習のみならず、教科等や学校段階等を越えて育成を目指す資質・能力を育成していくことが求められており、各学校にはその実現に向けたカリキュラム・マネジメントが期待されています。今回の改定においては、学校段階等間の接続の観点から、第 1 章総則で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること」が規定され、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続については重要性が一層高まっています。しかし、遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく異なり、小学校教育への接続は容易ではありません。

これまで、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続については、平成 20 年の「小学校学習指導要領解説生活編」の中で、幼児期の学びから小学校への円滑な接続を目的としたカリキュラム編成の工夫として、スタートカリキュラムが示されました。

今回の改定においては、第 1 章総則で、低学年における教育全体において、幼児期の教育及び中学校以降の教育との円滑な接続を図る役割が生活科に期待されるとともに、「特に、小学校入学当初において、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと（スタートカリキュラムの編成・実施）」が規定されたことを受け、低学年の各教科等（国語科、算数科、音楽科、図画工作科、体育科、特別活動）の学習指導要領にも同旨が明記されています。

以上のことから明らかなように、各小学校においては、入学した児童が、幼児期の教育における遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようするためのスタートカリキュラムの充実が求められています。

2 スタートカリキュラム（吉田町モデル）に基づいた教育を実施する施設

吉田町立 3 小学校 住吉小学校 中央小学校 自彊小学校

3 スタートカリキュラム（吉田町モデル）の特色

(1) 幼児教育からの効果的な接続を目指したカリキュラムの作成

子どもの目指す姿として、「安心して、自己の力を発揮し、主体的に学びに向かう子ども」を目標に、吉田町幼児教育カリキュラムを基に幼児教育からの効果的な接続を意識してスタートカリキュラムを作成しました。

スタートカリキュラム

新入生スタートカリキュラム

テーマ:「子どもの育ちを小学校につなげ、主体的に学びに向かう子どもを育成する」(仮)

願う子どもの姿
 ・ 主体的に学びに向かう基礎を身に付けることができる。(姿勢、聴き方、話し方、学習のルール)
 ・ 毎日元気に登校でき、友達と仲良く過ごす。

時期	4月				5月	6月	7月
	第1週	第2週	第3週	第4週			
テーマ	はじまめて学校	みんななかよくなるよ	やってみよう	できるようになったよ			
週ごとのねらい	担任の先生はどんな人なのか、手紙に話をもつて話したり、全校で思いやりの気持ちを育む。【主】	友達の名前を覚えて、一緒に遊ぶ。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】
目指す姿	身の回りの人との関わり(③④⑤⑥)	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】
	生活科を中心とした学習(①②③④⑦⑧⑨⑩)	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】
	教科を中心とした学習(⑥⑦⑧⑨⑩)	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】
	子どもの主体的な姿(①②③④)	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】	担任や友達の名前を覚えて、安全に通う。【主】

※ 幼児期に育って欲しい姿10の項目との関連
 ①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、
 ⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現

(2) スタートカリキュラムの構成

「なかよしタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」の3つの時間で構成されています。

ア 「なかよしタイム」

初めての学校生活での緊張や不安をほぐしたり体を動かしながら友達との仲を深めたりする時間

イ 「わくわくタイム」

生活科として扱い合科的・関連的な授業を行い学校生活に慣れる時間

ウ 「ぐんぐんタイム」

主に教科を扱い学習への意欲を高めたり、学力をつけたりする時間

(3) 4月から7月までの指導のねらい4視点の設定

指導のねらいを「身の回りの人とのかかわり」、「生活科を中心とした学習」、「教科を中心とした学習」、「子どもの主体的な姿」の4つの視点で分類し、子どもに願う姿や育てたい力を明確にしました。

(4) 幼児教育との接続の意識の強化

子どもの学びが連続していくように幼児教育との接続を意識して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目を考慮して作成しました。

(5) 小学校関係者の十分な話し合いと幼児教育関係者の意見の反映

吉田町スタートカリキュラム検討会を、平成29年度には、吉田町スタートカリキュラム(試行版)作成のために10回、平成30年度には、スタートカリキュラム(吉田町モデル)作成のために6回開催し内容の検討を行ってきました。また、吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会においてもスタートカリキュラムの内容を幼児教育関係者からの意見を集約し、反映させています。

4 スタートカリキュラム（吉田町モデル）の完成までの流れ

【吉田町幼児教育カリキュラム（試行版）作成】

(1) 平成 29 年 9 月 29 日（金）

第 1 回吉田町スタートカリキュラム検討会開催
「スタートカリキュラム作成のための方向性を検討」

(2) 平成 29 年 10 月 16 日（月）

第 2 回吉田町スタートカリキュラム検討会開催
「指導のねらい（4 月～7 月まで）を検討」

(3) 平成 29 年 11 月 6 日（月）

第 3 回吉田町スタートカリキュラム検討会開催
「4 月の時間割の検討①」

(4) 平成 29 年 12 月 8 日（金）

第 4 回吉田町スタートカリキュラム検討会開催
「4 月の時間割の検討②」

(5) 平成 30 年 1 月 11 日（木）

第 5 回吉田町スタートカリキュラム検討会開催
「松寄洋子教授からの指導、検討」

(6) 平成 30 年 1 月 16 日（火）

第 6 回吉田町スタートカリキュラム検討会開催
「指導のねらいと時間割の再検討①」

(7) 平成 30 年 1 月 22 日（月）

第 7 回吉田町スタートカリキュラム検討会開催
「指導のねらいと時間割の再検討②」

(8) 平成 30 年 2 月 6 日（火）

第 8 回吉田町スタートカリキュラム検討会開催
「指導のねらいと時間割の再検討③」

(9) 平成 30 年 3 月 8 日（木）

第 9 回吉田町スタートカリキュラム検討会開催
「松寄洋子教授からの指導、検討」

(10) 平成 30 年 3 月 28 日（水）

第 10 回吉田町スタートカリキュラム検討会開催
「各校の資料の共有」



【幼児教育カリキュラム（吉田町モデル）作成】

(1) 平成 30 年 9 月 18 日（火）

第 1 回幼児教育カリキュラム（吉田町モデル）検討会開催
「平成 30 年度の振り返り、平成 31 年度の方向性の確定」

(2) 平成 30 年 11 月 26 日（月）

第 2 回幼児教育カリキュラム（吉田町モデル）検討会開催
「4 月の時間割の見直し①」

(3) 平成 31 年 1 月 8 日（火）

第 3 回幼児教育カリキュラム（吉田町モデル）検討会開催
「4 月の時間割の見直し②、各校の資料の共有」

【吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会での検討】

(1) 平成 30 年 5 月 16 日（水）

第 1 回吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会開催
「吉田町幼児教育カリキュラム（試行版）の確認、実践報告」

(2) 平成 30 年 8 月 29 日（水）

第 2 回吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会開催
「幼児教育カリキュラム（吉田町モデル）の内容の検討①」

(3) 平成 31 年 1 月 23 日（水）

第 3 回吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会開催
「幼児教育カリキュラム（吉田町モデル）の内容の検討②」



(3) 吉田町幼児教育カリキュラムの理解と活用

幼児教育から小学校教育への効果的な接続のために小学校教員の幼児教育の理解が必要です。子ども一人ひとりの発達や成長を理解するために吉田町幼児教育カリキュラムにおける「発達過程における育てたい子供の姿」及び指導の留意点を把握しておくことが必要です。

幼児教育カリキュラムの内容

- 発達過程における育てたい子供の姿を3つの段階の「ステップ」でまとめた。
- 実践に基づき設定された「指導の留意点」を明示。

町内幼児教育機関の共通の指導指針
経験年数の違いを越えて、どの指導者であっても
質の高い幼児教育を実施することを目指す

(4) 子どもの成長記録（研究用）ピーナッツプロフィールによる子どもの実態把握

スタートカリキュラム（吉田町モデル）に基づいて授業を実践する際に、子どもの実態把握は不可欠です。幼児教育施設から子どもの成長記録として送付されたピーナッツプロフィールから実態を把握し、授業に活かしていきます。また、公開授業の参観を含めた幼児教育関係者との研修では、抽出児を設定し、その表れについて協議を行うなども可能になります。

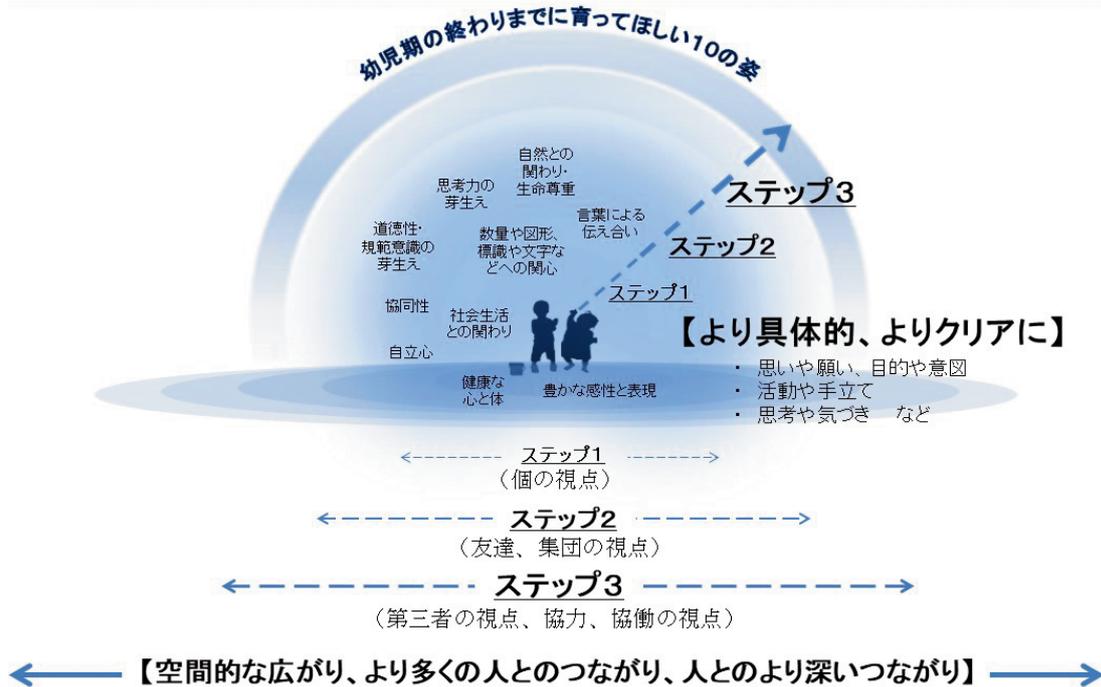
幼保小の連携

幼稚園、保育園、こども発達支援事業所が、各小学校へ、指導要録とともに、ピーナッツプロフィールを引き継ぐことにより、よりきめの細かい個に応じた指導が可能となる。

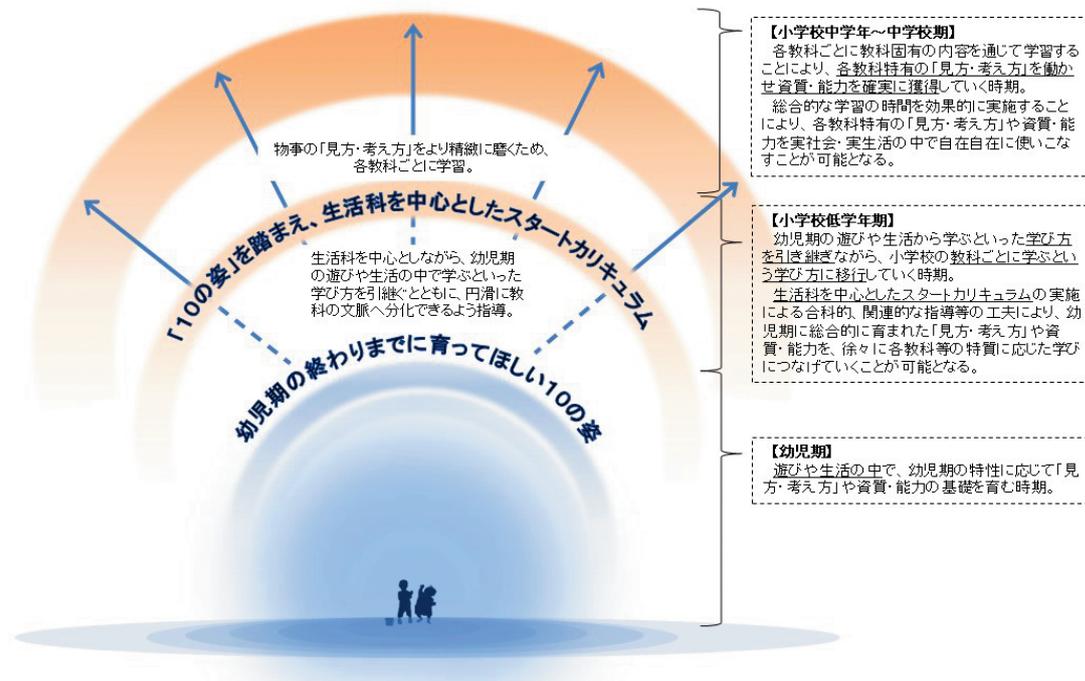
- ・ 「ステップ」は評価基準ではなく、「ピーナッツプロフィール」は個人を数値で評価するものではない。
- ・ 子供の現れをもとに読み取り、それを次の指導に活かすための材料とするもの。

6 吉田町幼児教育カリキュラムとスタートカリキュラムのイメージ

吉田町版幼児教育カリキュラムのイメージ



スタートカリキュラムのイメージ



7 スタートカリキュラム (吉田町モデル)

吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会

テーマ：「子どもの幼児期の育ちを小学校につなげ、主体的に学びに向かう子どもを育成する」

願う子どもの姿
 ・主体的に学びに向かう基礎を身に付けることができる。(姿勢、聴き方・話し方、学習のルール)
 ・毎日元気に登校でき、友だちと仲良く過ごす。

時期	テーマ	週ごとのねらい	目指す姿			
			★なかよしタイム 主に身の回りの人との関わりを中心とした学習 (3④⑤⑨)	★わくわくタイム 主に生活科を中心とした学習 (①②③⑦⑧⑨⑩)	★ぐんぐんタイム 主に教科を中心とした学習 (⑥⑦⑧⑨⑩)	子どもの主体的な姿 (①②③④)
4月～5月前半	第1週 はじめまして学校	担任の先生や周りの友だちはどんな人なのか、学校にはどのような場所があるのか知り、安心して学校に来る。	・担任はどんな人物なのか知り、安心して話をしたり、登校できたりする。【学】 ・自分のことを友だちに話をしたり、友だちの話を聞いたりして、友だちと関わろうとする。【生・国】	・学校探検を行い、特別教室やトイレなどの位置を知り、自分で移動できる。【生】 ・教室など身の回りには、どこにどんな物があるのか、どこに何をしまうのか知り、片付けや準備ができる。【生】 ・学校探検を通して、どんな春があるか体験的に学ぶ。【生】	・自分の名前を読んだり、書いたりする。【国】 ・楽しく体を動かしたり、読み聞かせや簡単なクイズなどをしたりすることを通して、学習への興味を高める。【国・算・音・体】	・自分で支度をする中で、学校での生活の仕方がわかる。 ・給食の配膳を教師と共に行き、自分の仕事を意識しながら取り組む。
	第2週 みんなとなかよくなろう	友だちの名前を覚えて、一緒に遊んだり、曲に合わせて体を動かしたりすることで、友だちと仲良くなる。	・学年の友だちと自己紹介をし合い、いろいろな子と積極的に関わり、友だちを増やす。【生・国・音・体】	・学校探検でもう一度行きたい場所へ行き、どんな場所なのか詳しく調べる。【生・国】 ・特別教室への入り方を知り、どこにどんな先生がいるのかわかる。【生・国・道】	・学年での活動を通して、幼児期で身に付けた集団行動を振り返る。【生・体・音・学】 ・平仮名や数を楽しく覚え、学習に対して意欲的に取り組む。【国・算】	・友だちと教え合い、協力しながら、どの子とも仲良くし、学習や活動に取り組む。
	第3週 やってみよう	幼稚園や保育園のルールや活動を思い出しながら、学校での過ごし方を考え、自分の分担した仕事をやってみる。	・幼児期のきまりや活動を思い出しながら学校やクラスでのルールを確認し、清掃や係活動に取り組む。【生・道・学】 ・1年生を迎える会を通して、学校の一員ということを実感する。	・掃除当番や係活動の仕事を覚えて、取り組んでみる。【生・学】 ・学校探検で何度も行った場所に親しみ、見つけたものを言葉や絵に表す。【生・国・算・図】 ・読み聞かせにより、お話の想像を広げて自分なりに表現をする。【国・図】	・数を数字で正しく表したり、数えたりする。【算】 ・平仮名を形に気を付けて書く。【国】 ・教科書の短い文を声に出して読む。【国】	・掃除当番や係活動など分担した仕事を教師と共に取り組み、自分の仕事を意識しながら生活する。
	第4週 できるよになったよ	異学年と交流し、安心して生活する。また、1ヶ月間の生活を振り返り、成果と課題を認識し、今後の生活に繋げる。	・友だちと頑張っていることを見つけ合い、自他共に認める。【生・学】 ・2年生と学校のことを教えてもらい、上級生と仲良くなる。【生】 ・上級生や目上の人との接し方を知ることで、自分から関わる。 ・6年生と関わることで、挨拶をしたり、名前呼び合ったりして、仲を深める。	・学校探検を通して、疑問に思ったことを2年生に教えてもらう。【生・国】 ・学校探検でわかったことをまとめ、クラスの友だちに話することができる。 ・4月の一カ月を振り返り、今後のめあてをもつ。【生・学】	・日常的に数を数えることで、数の感覚を身に付ける。【算】 ・平仮名を書き順に気を付けて書く。【国】 ・教科書の短い文を声に出して読む。【国】	・休み時間に次の授業の支度やトイレを済ませ、授業に対しての姿勢を整える。 ・学習面や生活面において、意欲的に取り組んだり、自分たちでやろうとしたりする。
5月後半	45分授業に慣れ、友だちと共に意欲的に授業に取り組む。	・担任に困ったことを伝えることができる。(忘れ物、トイレ、友だちとのトラブル等) ・運動会に向けて、共通の目標をもち、お互いに声を掛け合って、練習に取り組む。【体・学】	・アサガオの栽培を通して、数を数えたり、五感を使って観察をしたりする。【生・算】 ・アサガオの成長を観察し、擬態語を使って表現する。(ざらざら、ふわふわ等)【生・国】	・平仮名を覚え、単語を書くことができる。【国】 ・短いお話を登場人物になりきって楽しく音読する。【国】 ・具体物や半具体物を数えることで、数の構成を理解する。【算】	・同じ下校グループの子と安全に気を付けて、自分たちだけで下校する。	
6月	クラスやペア、仲間など、集団としての意識をもって生活する。	・身の回りの人に進んで気持ちのよい挨拶をする。 ・身の回りに困っている子がいたら助け、友だちに対して思いやりの気持ちをもつ。	・生き物探しをして、気付いたことを「どこに何がいた。」の短文に表す。また、どのような環境にどの生き物が多いかに気付く。【生・国】 ・アサガオの成長を観察し、細かい変化に気付いて短文を使って記録する。(葉っぱが増えたよ。背が伸びたよ。等)【生・国】	・主語や述語を理解して、簡単な文を作る。【国】 ・短い文章を読み、挿絵や写真をもとに場面の様子を想像しながら読む。【国】 ・文章を読んで、具体物や半具体物を使って、足し算・引き算の場面の様子を理解する。【算】	・雨の日の遊びを議題として、みんなで話し合う経験をし、自分の意見を伝える。	
7月	学校生活にも慣れ、友だちと協力しながら生活する。	・友だちとのトラブルや困ったこと等を自分で解決しようとする。 ・身の回りに困っている子がいたら助け、友だちに対して思いやりの気持ちをもち、互いに声を掛け合う。	・水遊び等を通して量感や性質などの感覚を身に付ける。【生・算】 ・アサガオの成長を観察し、擬態語や変化だけでなく自分の思いを加えて記録する。【生・国】	・様子が伝わるように主語、述語、時、場所、気持ちを入れた文を書く。【国】 ・文章を読み、文章から内容を理解し場面の様子を想像しながら読む。【国】 ・文章を読んで、具体物や半具体物を使って、様々な場面の様子を理解し、立式する。【算】	・入学してから夏休みまでの間で、成長した自分に気づき、夏休みや夏休み明けの意欲に繋げる。	

※「幼児期の終わりまでに育って欲しい力」10の姿との関連
 ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え
 ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重
 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い
 ⑩豊かな感性と表現

第1週目

吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会

		4/8(月)		4/9(火)		4/10(水)		4/11(木)		4/12(金)			
朝の活動						なかよしタイム かばんの支度		なかよしタイム かばんの支度		なかよしタイム かばんの支度			
	1	学	なかよしタイム ・入学式の事前指導 ・歌の練習	国	なかよしタイム ・朝の会・お話をきこう ・ペアをつくろう ・歌っておどろう ・学校のトイレへ行こう	国	なかよしタイム ・朝の会・お話をきこう ・ペアをつくろう ・歌っておどろう ・体を動かして遊ぼう	国	なかよしタイム ・朝の会・お話をきこう ・ペアをつくろう ・歌っておどろう ・体を動かして遊ぼう	学	なかよしタイム ・入学式の事前指導 ・歌の練習		
	2	行	入学式	生	わくわくタイム ・どんなグループで帰るの かな ・危ないところはどこだ ろう	道	わくわくタイム ・『ようこそ1ねんせい』 を読む ・学校探検隊！（校内） ・どこになにがあるの かな	行	交通安全教室	行	入学式		
	3	学	なかよしタイム ・学級開き ・担任紹介	生	わくわくタイム ・学校探検隊！（校外） ・どんな春があるかな ・遊具を使って遊ぼう	生	わくわくタイム ・学校探検隊！（校内） ・どこになにがあるの かな	体	ぐんぐんタイム ・遊具を使って遊ぼう ・上手にお着替えでき るかな	学	なかよしタイム ・学級開き ・担任紹介	学	なかよしタイム ・学級開き ・担任紹介
	4			国	ぐんぐんタイム ・給食の準備や片付 け、ルールを話し合 おう ・給食準備	国	ぐんぐんタイム ・平仮名を書こう ・給食準備	算	ぐんぐんタイム ・10までの数を数え よう ・給食準備	学		学	
5													

- なかよしタイム ……初めての学校生活での緊張や不安をほぐしたり、体を動かしながら友達との仲を深めたりする時間。
- わくわくタイム ……生活科として扱う。合科的・関連的な授業を行い、学校生活に慣れる時間。
- ぐんぐんタイム ……主に教科を扱う。学習への意欲を高めたり、学力をつけたりする時間。

教科等	前週		実施		累計	
	45分	15分	45分	15分	45分	15分
教科等	45分	15分	45分	15分	45分	15分
国語	0	0	2	1	2	1
社会	0	0	0	0	0	0
算数	0	0	0	2	0	2
理科	0	0	0	0	0	0
生活	0	0	3	0	3	0
音楽	0	0	1	0	1	0
図工	0	0	0	0	0	0
家庭	0	0	0	0	0	0
体育	0	0	2	1	2	1
外国語	0	0	0	0	0	0
総合	0	0	0	0	0	0
道徳	0	0	0	2	0	2
学活	0	0	3	0	3	0
小計	0	0	13	0	13	0
児童会	0	0	0	0	0	0
なかよし	0	0	0	0	0	0
行事	0	0	2	0	2	0
総計	0	0	15	0	15	0

月	火	水	木	金	合計
0	0	3	1	3	7
0	0	0	0	0	0
0	0	0	2	0	2
0	0	0	0	0	0
0	0	5	4	0	9
0	0	1	1	1	3
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	2	1	4
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	6	1	1	1	9
0	6	12	12	9	39
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	3	0	0	3	6
0	9	12	12	12	45

第2週目

		4/15(月)		4/16(火)		4/17(水)		4/18(木)		4/19(金)	
朝の活動		なかよしタイム クラスの時間		なかよしタイム クラスの時間		なかよしタイム クラスの時間		なかよしタイム クラスの時間		なかよしタイム クラスの時間	
1	音 生 体	なかよしタイム ・歌って踊ろう ・友だち大作戦！ ・まねっこ遊びをしよう		なかよしタイム ・歌って踊ろう ・友だち大作戦！ ・背の順で並ぼう		なかよしタイム ・歌って踊ろう ・友だち大作戦！ ・体を動かして遊ぼう		なかよしタイム ・歌って踊ろう ・友だち大作戦！ ・まねっこ遊びをしよう		なかよしタイム ・歌って踊ろう ・友だち大作戦！ ・体を動かして遊ぼう	
2	学 学 学	身体測定		わくわくタイム ・学校探検でどんな部 屋があったかな ・どこの部屋にもう一度 行きたいかな		わくわくタイム ・学校の中の避難場所 を確認しよう		わくわくタイム ・グループで学校探検 にもう一度行こう ・？を見つけよう ・見つけたことを話そう		聴力検査	
3	学 学 学	視力検査		わくわくタイム ・学校探検のマナーを 勉強しよう (道徳「あいさつ」、国語 「あかるいあいさつ」)		避難訓練		わくわくタイム ・グループで学校探検 にもう一度行こう ・？を見つけよう ・見つけたことを話そう		くんぐんタイム ・平仮名を書いてみよう ・10までの数を数えよ う	
4	国 算 学	くんぐんタイム ・平仮名を書いてみよう ・10までの数を数えよ う ・給食準備		くんぐんタイム ・「なかよし」を読んでみ よう ・平仮名を書いてみよう ・給食準備		くんぐんタイム ・係を決めよう ・給食準備		くんぐんタイム ・係カードを作ろう ・給食準備		くんぐんタイム ・1年生を迎える会の練 習 ・給食準備	
5										学校行事 登校班集会	

教科等	前週		実施		累計	
教科等	45分	15分	45分	15分	45分	15分
国語	2	1	4	0	6	1
社会	0	0	0	0	0	0
算数	0	2	0	2	1	1
理科	0	0	0	0	0	0
生活	3	0	4	0	7	0
音楽	1	0	2	1	3	1
図工	0	0	0	1	0	1
家庭	0	0	0	0	0	0
体育	2	1	1	2	4	0
外国語	0	0	0	0	0	0
総合	0	0	0	0	0	0
道徳	0	2	0	2	1	1
学活	3	0	6	1	9	1
小計	13	0	20	0	33	0
児童会	0	0	0	0	0	0
なかよし	0	0	0	0	0	0
行事	2	0	0	0	2	0
総計	15	0	20	0	35	0

月	火	水	木	金	合計
1	3	1	5	2	12
0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	1	2
0	0	0	0	0	0
1	4	3	3	1	12
1	1	1	1	3	7
0	0	0	1	0	1
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	5
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	2	0	0	0	2
7	1	6	1	4	19
12	12	12	12	12	60
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
12	12	12	12	12	60

第3週目

朝の活動		4/22(月)	4/23(火)	4/24(水)	4/25(木)	4/26(金)
		なかよしタイム ・学年の友だちとなかよくなる	なかよしタイム ・学年の友だちとなかよくなる	なかよしタイム ・お話を聞こう (『クレヨンのかろくん』シリーズ)	なかよしタイム ・学年の友だちとなかよくなる	なかよしタイム ・お話を聞こう (『からすのパンやさん』)
1	音 生 体	なかよしタイム ・歌って踊ろう ・友だち大作戦! ・体を動かして遊ぼう	なかよしタイム ・歌って踊ろう ・友だち大作戦! ・体を動かして遊ぼう	生 国 図 わくわくタイム ・クレヨンを使って絵を描こう	生 算 算 わくわくタイム ・まだ行ったことのない部屋を探しに行こう ・数を見つけに行こう	生 国 図 わくわくタイム ・お話から想像を広げて、自分が食べたいパンを粘土で作ろう
2	生 国 国	わくわくタイム ・見つけた?をまとめよう ・見つけた?を2年生に聞きに行こう	音 音 音 ぐんぐんタイム ・いろいろな歌を歌ってみよう ・リズムをうとう	体 体 体 ぐんぐんタイム ・走ってみよう (50メートル走の計測)	生 算 算 わくわくタイム ・まだ行ったことのない部屋を探しに行こう ・数を見つけに行こう ・見つけたものを絵に描こう	算 算 学 ぐんぐんタイム ・10までの数のおさらい ・1年生を迎える会の準備をしよう
3	国 国 国	ぐんぐんタイム ・平仮名を書こう ・こえをあわせてあいうえお	算 算 算 ぐんぐんタイム ・10までの数を数えよう	国 国 国 ぐんぐんタイム ・みつけてはなそう、たのしくきこう ・平仮名を書こう	算 算 算 ぐんぐんタイム ・10までの数を数えよう	行 行 行 学校行事 1年生を迎える会
4	算 算 学	ぐんぐんタイム ・10までの数 ・給食準備	国 国 学 ぐんぐんタイム ・平仮名を書こう ・給食準備	音 音 学 ぐんぐんタイム ・1年生を迎える会の練習 ・給食準備	音 音 学 ぐんぐんタイム ・1年生を迎える会の練習 ・給食準備	国 国 学 なかよしタイム ・1年生を迎える会の感想を伝え合おう。 ・平仮名をかこう。 ・給食準備
5						

教科等	前週		実施		累計	
教科等	45分	15分	45分	15分	45分	15分
国語	6	1	4	2	11	0
社会	0	0	0	0	0	0
算数	1	1	4	2	6	0
理科	0	0	0	0	0	0
生活	7	0	2	1	9	1
音楽	3	1	3	0	6	1
図工	0	1	0	2	1	0
家庭	0	0	0	0	0	0
体育	4	0	1	2	5	2
外国語	0	0	0	0	0	0
総合	0	0	0	0	0	0
道徳	1	1	0	0	1	1
学活	9	1	2	0	11	1
小計	33	0	19	0	52	0
児童会	0	0	0	0	0	0
なかよし	0	0	0	0	0	0
行事	2	0	1	0	3	0
総計	35	0	20	0	55	0

月	火	水	木	金	合計
5	2	4	0	3	14
0	0	0	0	0	0
2	3	0	7	2	14
0	0	0	0	0	0
2	1	1	2	1	7
1	4	2	2	0	9
0	0	1	0	1	2
0	0	0	0	0	0
1	1	3	0	0	5
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	2	6
12	12	12	12	9	57
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	3	3
12	12	12	12	12	60

第4週目

朝の活動		4/27(土)	5/7(火)	5/8(水)	5/9(木)	5/10(金)
		なかよしタイム ・お話をきこう	なかよしタイム ・お話をきこう	なかよしタイム ・お話をきこう	なかよしタイム ・お話をきこう	なかよしタイム ・お話をきこう
1	生 音 体	なかよしタイム ・歌って踊ろう ・友だち大作戦！ ・体を動かして遊ぼう	なかよしタイム ・歌って踊ろう ・友だち大作戦！ ・体を動かして遊ぼう	わくわくタイム ・学校探検でわかったことをまとめよう	わくわくタイム ・学校探検の報告会をしよう	ぐんぐんタイム ・「くまさんとありさんのごあいさつ」を読もう ・平仮名を書こう
2	算 算 算	ぐんぐんタイム ・いくつといくつになるかな	わくわくタイム ・学校探検の？を2年生に教えてもらおう	わくわくタイム ・学校探検でわかったことをまとめよう	ぐんぐんタイム ・ヤーレコのセイを躍ろう	ぐんぐんタイム ・いくつといくつになるかな
3	国 国 国	ぐんぐんタイム ・平仮名を書こう	ぐんぐんタイム ゴールデンウィークの思い出を絵に描こう	ぐんぐんタイム あたらしい道徳 （「べんきょうがはじまりますよ」）	ぐんぐんタイム ・チョコチョコかざりをつくろう	ぐんぐんタイム ・いろいろな歌を歌ってみよう ・リズムをうとう
4	婦りの会 婦りの支度	算 国 学	ぐんぐんタイム ・いくつといくつになるかな ・平仮名を書こう ・給食準備	算 国 学	算 国 学	学 生 学
5	ぐんぐんタイム （授業参観）					

教科等	前週		実施		累計	
教科等	45分	15分	45分	15分	45分	15分
国語	11	0	4	0	15	0
社会	0	0	0	0	0	0
算数	6	0	3	0	9	0
理科	0	0	0	0	0	0
生活	9	1	3	0	12	1
音楽	6	1	1	2	8	0
図工	1	0	3	0	4	0
家庭	0	0	0	0	0	0
体育	5	2	1	2	7	1
外国語	0	0	0	0	0	0
総合	0	0	0	0	0	0
道徳	1	1	1	0	2	1
学活	11	1	1	2	13	0
小計	52	0	19	0	71	0
児童会	0	0	0	0	0	0
なかよし	0	0	0	0	0	0
行事	3	0	0	0	3	0
総計	55	0	19	0	74	0

月	火	水	木	金	合計
3	3	1	2	3	12
0	0	0	0	0	0
3	1	1	1	3	9
0	0	0	0	0	0
1	3	2	2	1	9
1	1	0	0	3	5
0	2	4	3	0	9
0	0	0	0	0	0
1	1	0	3	0	5
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	3	0	0	3
0	1	1	1	2	5
9	12	12	12	12	57
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
9	12	12	12	12	57

8 なかよしタイム・わくわくタイムの詳細説明



なかよしタイム

一人ひとりが**安心感**をもつ
担任や友達に慣れ、**新しい人間関係**
を築いていく時間

安心できる場所がある、安心する人がいるということは、学校への不安をなくす大きな要素である。なかよしタイムでは、幼児期に親しんできたことや友達との協力が必要な遊びやクイズを取り入れていく。今まで経験してきたことを小学校でも行うことで、子どもたちが自信をもって意欲的に取り組むことができる。また、遊びやクイズの中で友達と協力することで、自然と人間関係が築かれていく。

子どもたちは、安心した気持ちでいることで、様々な活動に主体的に取り組むことができる。



登校後の朝の時間

入学前の子どもたちは、登園時間に幅がある。子どもたちは、登園した後、自分の好きな遊びを選択して過ごしている。そうした時間を小学校でも取り入れ、子どもたちの安心感に繋げていく。

決められた活動をさせるのではなく、自分のやりたい遊びを考えたり、選んだりできるように、遊びの選択肢を増やしておく。

例) 廊下や教室の一角にコーナーを設ける

・積み木 ・折り紙 ・色塗り ・絵本 ・粘土 ・ブロックなど



★活動終了の合図(校歌や知っている歌を流す)を覚えておくことで、自分たちで片付けることができる。



朝の会

時間	活動	内容	例
8:00～ 8:25	朝の活動	幼児期に親しんできた活動	・歌 ・手遊び歌 ・ダンス ・体操 ・読み聞かせ など
	健康観察	健康観察	・教師が一人ひとりとハイタッチしながら健康状態を確認する。
	おたより配布	配布物があったら配る	・「はい、どうぞ。」と優しく声をかけて後ろに回していく。

「分かるよ。」「知っているよ。」は、子どもたちの自信の表れ。幼児期に経験してきたことを小学校の活動に入れていく。



手をつなぐ、肩を組む、挨拶、かけ声など、体を使った動きは子どもたちの体や心をほぐす。朝の活動や健康観察に取り入れていく。

♡ なかよしタイム活動例

朝の会が終わったら、全員でなかよしタイムを始める。

幼児期に親しんできた遊び、体を動かす活動、仲間と協力をして取り組むゲームなどを活動に組み合わせていく。

入学直後は、園で経験してきたことから活動を構成する。そして、徐々に学習の要素を組み込んでいく。

園での環境 (教室環境の参考に)	園でよく取り入れている活動 (例)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4人位のグループ机が基本 →自然に顔を見合わせるので、友人関係が育まれる。 ・ 色、キャラクターなどを使って判別しやすくする →文字が読めなくても自分から進んで支度できる。 	<p>【体づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鬼ごっこ (代わり鬼、氷鬼、バナナ鬼など) ・ ドッジボール (王様ドッジ、玉を増やす) 	<p>【うた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おちた、おちた ・ やおやさん (変えることで、バリエーションが増える) <p>【読み聞かせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朗読 (おはなしろうそく) ・ 「エルマーの冒険」等



教科との関連	活動名	活動内容	用意する物
体育	サーキット	体育館内に、フラフープ、跳び箱、マット、縄跳びなどを用意しておき、サーキット場を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ フラフープ ・ 跳び箱 ・ マット ・ 縄跳び
音楽 算数	さんぼ	歌をうたいながら歩く。音楽が止んだら、タンバリンの音の数だけ人数を集める。 ※タンバリンの音を言葉の文字数、数字を見せるなど変えても面白い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ CD ・ タンバリン (ホワイトボード)
音楽 国語	ぞうさんのさんぼ	歌をうたいながら歩く。 「こんにちは」をしたら、握手。 ※慣れてきたら、名前を言う、テーマに関することをインタビューする。 テーマは、色、食べ物、テレビ番組など誰でも答えられるものにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ CD ・ ホワイトボード
音楽 国語 算数	友達大作戦	「1年生になったら」を歌い、意欲を高める。 「ぞうさんのさんぼ」を歌い、出会った人と握手をし、サインをもらう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ CD ・ 探検バック ・ えんぴつ

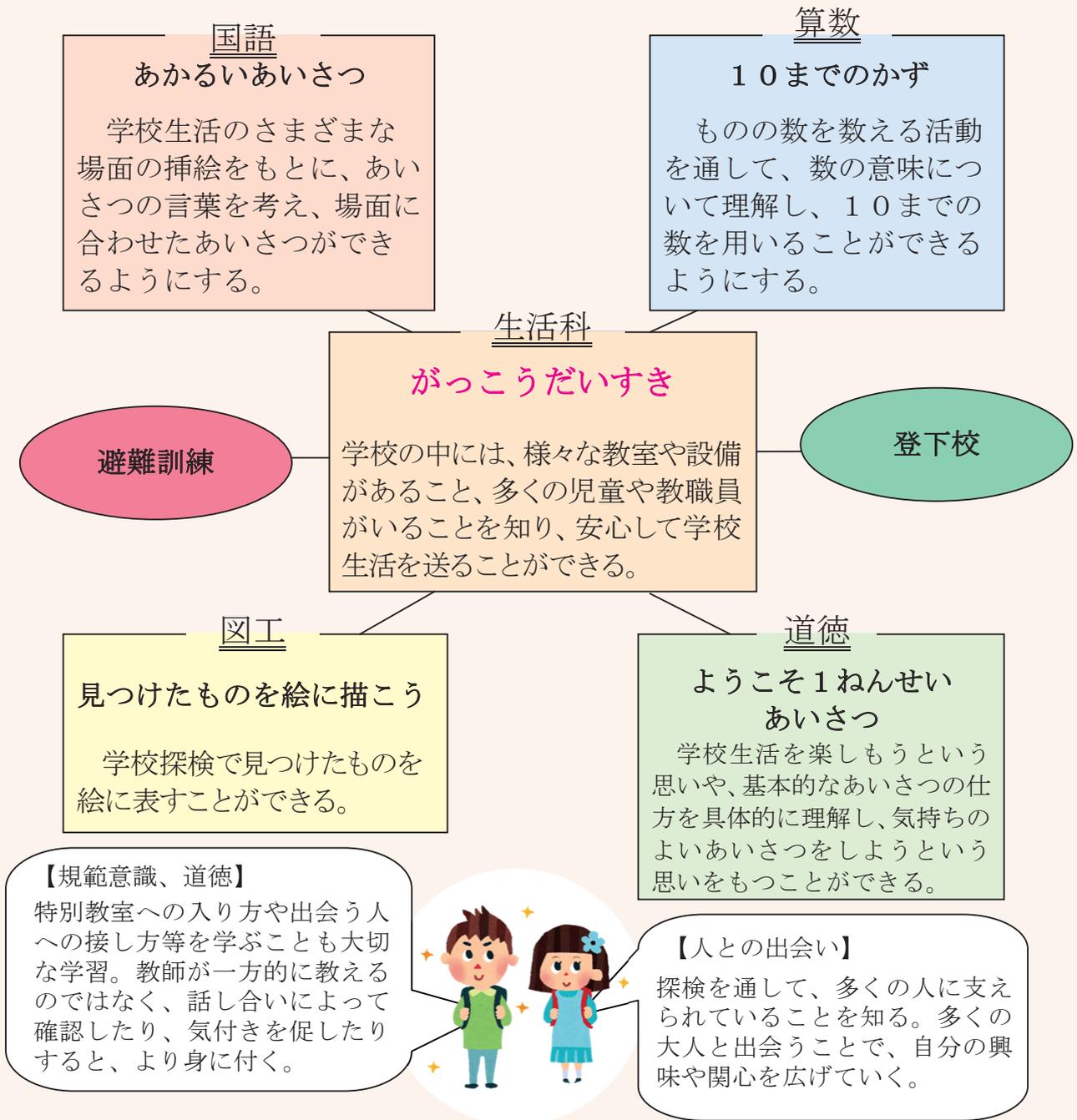
<p>国語 生活</p>	<p>クイズ</p>	<p>「わたしはだれでしょう」 3つくらいヒントを出す。誰に入るところは、その日の活動で変えていく。 例) 読み聞かせで「11 びきのねこ」を読む時だったら・・・ ①わたしは狭いところも入ります ②わたしは尻尾が長いです ③わたしは魚が大好きです 「わたしは誰でしょう」 今日は、ねこさんが主人公のお話を読みます。</p>	
<p>国語 図工</p>	<p>読み聞かせ</p>	<p>学校司書に読み聞かせ用の本を選書してもらい、本を読み聞かせする。 わくわくタイムやぐんぐんタイムに行う活動に合わせて本を選ぶと効果的。 例) 読み聞かせ『からすのパン屋さん』 わくわくタイム：粘土でパンを作ろう</p>	<p>・本</p>
<p>音楽</p>	<p>じゃんけん 列車</p>	<p>音楽に合わせて動き回り、音楽が終わったときに出会った子とじゃんけんをする。先頭の後ろにどンドンついて行く。 帽子をかぶると先頭が分かりやすい。</p>	<p>・CD ・帽子</p>

★ わくわくタイム

生活科を中心とした体験的な活動を通して、各教科等と合科・関連を図り、主体的な学びをつくっていく時間。

わくわくタイムでは、子どもたちが発見した不思議や疑問、体験的な活動の中で抱いた思いや願いをもとに、学校探検や季節の遊び、植物栽培などの具体的な活動や体験を通して、各教科等との合科、関連を図り、問題解決的な学習を展開していく。

★ 各教科等との合科・関連（カリキュラム・マネジメント）



★学校探検の活動例

時間	活動内容	形態	留意点
1	どんなグループで帰るのかな	学年	
2	学校探検隊（校外）	学級	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が連れて行く。 ・時間をずらして、他学年の学習の妨げにならないようにする。
3 4	ようこそ1ねんせい（道徳）《15分》 学校探検隊（校内）《残りの時間》 どこになにがあるのかな	学級	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に全職員に伝え、承諾を得ておく。
5	どんな部屋があったかな《30分》 どこの部屋にもう一度行きたいかな《15分》	学級 グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある部屋ごとグループを作り、調べていくことを押さえる。
6	学校探検のマナーを勉強しよう《15分》 あいさつ（道徳）《15分》 あかるいあいさつ（国語）《15分》	学級	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、道徳の教科書を使用する。
7	避難場所を確認しよう ※火元になりそうな部屋を考え、場所の確認をする。	学級	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の前に実施し、避難場所と避難経路を確認する。
8 9	グループで学校探検に行こう ？を見つけよう《60分》 なにがあったか話そう《30分》	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ※特別教室を使用しているところを見学する。 ・この時間に使用してもらえるようにお願いします。
10	見つけた？をまとめて、2年生に聞きに行こう まとめる《30分》 聞きに行く《15分》	学級	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の？を1つ決めて、2年生に教えてもらうためにまとめる。

1 1 1 2	まだ行ったことのない部屋を探検しに行こう かず見つけ《60分》 見つけたものを絵に描こう《30分》	学級	<ul style="list-style-type: none"> ・かず見つけをしながら、各学級ごと探検に行く。 ・見つけたものを絵に描く活動を取り入れる。
1 3	学校探検の疑問や部屋のひみつを、2年生に教えてもらおう	グループ (特別教室)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に疑問を出しておき、2年生に伝える。 ・各グループごと、特別教室で教えてもらう。
1 4 1 5	学校探検のことをまとめよう	学級 グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙に写真や言葉でまとめる。 ・自分達で調べたことや2年生から教えてもらったことを入れる。
1 6	クラスで学校探検の報告会をしよう	学級	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめたことを友だちに伝える。

※合科的な授業の場合は、15分を目安として活動を行う。

目安の時間は、学習活動に記載してある。

この活動後も生活科の授業では、学校探検と関連させて以下の活動も行っていく。

①校内にいる先生方にインタビューに行く。

- ・学年で先生を割り振り、期日を決め、インタビューに行く。
- ・写真と名前、仕事の内容等を書いた「先生ずかん」を作り、発表会を行う。
(学年でICT機器を使うとやりやすい。)

②なかよしタイムで行った「友だち大作戦」の延長で、学校中の上級生や先生と仲良くなるよう大作戦を行う。

- ・期間を設け、休み時間に行くようにする。
- ・全校、全職員に知らせ、周知してもらっておく。
- ・学校探検同様、廊下歩行やインタビューの仕方等のきまりを再度確認し、練習をしてから行うようにする。

《事前にお願いしておくこと》

◎教職員…学校探検で1年生が校内を探検すること。

時間を確実に伝えて把握してもらおう。

◎級外の先生（特に特別教室担当者）

（校長室、事務室、保健室、図書室、理科室、音楽室、PC室、給食室、放送室等）

…第8・9時の時間に合わせ、特別教室を使用してもらおう。

◎支援の先生…子どもたちの導線に立ち、支援をしてもらう。

◎2年生…学校探検で出た疑問に答えてもらうこと。

活動場所は各特別教室。

①学校探検での疑問を授業で出す。

②2年生に伝える。（1週間後に教えてもらう）

③時間を調整し、特別教室に行って教えてもらう。

④+αでその部屋の秘密等も教えてもらえるとよい。

各校、各学級の実態に合わせて、やりやすいように変更して活動を行ってください。

9 平成 30 年度の実践事例について

平成 30 年度における吉田町内の幼稚園、保育所等並びに小学校の取組を紹介します。

「吉田町幼児教育カリキュラム」や「吉田町スタートカリキュラム」を基に、幼稚園、保育所等と小学校で実践された活動や授業について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「発達段階における育てたい子供の姿」を踏まえてまとめました。

各実践事例は、次のように構成されています。

- 1 活動名（歳児・学年、活動月）
- 2 活動時期の子どもの姿
- 3 活動のねらい
- 4 考察
- 5 指導のポイント
- 6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

今後、共通したカリキュラムを基に、育てたい子供の姿を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続に資する教育課程や指導方法の在り方について探り、実践していきます。

紹介する実践事例（一覧）

項目	施設名	歳児・学年	活動月	活動名
I	自彊小学校	1年	4月	なかよしタイム 「友だちとなかよくなるろう」
II	住吉小学校	1年	4月～	ぐんぐんタイム 「ひらがなを書こう」
III	中央小学校	1年	4,5月	わくわくタイム 「中央探検隊になって、 学校の中の数を見つけよう」

I 自彊小学校

1 活動名

なかよしタイム「友だちとなかよくなるろう」（1年生 4月）

2 活動時期の子どもの実態

入学当初の子どもたちは、「友だちをたくさん作りたい。」「いろいろな子と仲良くなりたい。」という気持ちをもっていた。また、子どもたちは、歌を歌ったり、遊んだりするなど体を動かした活動が大好きで、どの子も楽しく活動することができていた。このような児童の実態を踏まえて、歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりしながら、新しい友だちとかかわり、交流を深める活動を設定することにした。

3 活動のねらい

- ・リズムにのりながら活動することを通して、新しく出会った友だちに積極的にかかわろうとし、友だちとの活動を楽しむ。
- ・クラスや同じ学年の子と交流する活動を通して、小学校でも新しい友だちを作り、学級や学年に所属感をもつ。
- ・活動の仕方を知り、ルールを守りながら活動することを通して、みんなで活動する時には、ルールを守ったり、友だちのことを考えたりすることが大切であることを知る。

4 活動の考察

スタートカリキュラムの「なかよしタイム」の時間を利用して、「友だちとなかよくなるろう」という活動を設定した。

子どもたちは、音楽に合わせて体を動かしながらペアになる子を探し、ペアになる子を見つけたら「一緒にやろう。」「いいよ。」と声を掛け合っていた。お互いに自分の名前を言ったら「よろしくね。」と言いながら握手をし、言葉によるやりとりを積極的に行った。この活動をクラスや学年で何度も繰り返し行ったことで、子どもたちは、活動にもすぐに慣れ、新しい友だちを作ろうとする姿が見られた。多くの子と交流を深め、子どもたちは、「友だちが〇人に増えたよ。」と話し、学級や学年に所属感をもっていた。クラスや学年で十分に活動した後は、上級生や先生にも、交流の幅を広げていった。学校内に知っている人が増えていくことに対して、子どもたちは嬉しそうにしていた。

入学して間もない子どもたちにとって、音楽に合わせて活動をする手立ては、楽しさを感じさせることに有効であった。同時に、同じ活動を繰り返したことで、活動の仕方を定着させることができたため、子どもたちは、怪我のないように歩いて行動することやジャンケンをして勝った方から自己紹介をすることなどルールを守って活動に参加することができた。子どもたちは、ルールを守るとみんなで楽しく活動できることも実感できた。また、同じ活動を繰り返したことは、特別支援対象児も安心して活動に取



「ペアを見つけて自己紹介をし合い、
「よろしくね。」の握手をしている様子」

り組むことに繋がった。

5 指導のポイント

- ・クラスで何度か活動をして、クラスの友だちとの交流を深めた後に、学年でなかよしタイムを実施した。少しずつ大きな集団で友だちと交流をできるようにし、さまざまな子と関わりをもつことができるようにした。また、上級生や先生に協力してもらい、学校全体に交流の幅を広げた。学校に知っている人がたくさんいるという所属感をもたせることができた。
- ・ひとりの子がいたら、「一緒にやろう。」と声をかけるように子どもたちに伝え、ひとりの子が出ないようにした。
- ・ワークシートを用意し、お互いに自分の名前を相手の子のワークシートに書いた。その際に、まだ文字を書くことが苦手な児童に対しては、支援員に手伝ってもらい、マークのみでもよいこととした。
- ・音楽に合わせて体を動かしながらペアをつくるように設定し、ペアを作った後には、一緒に体を動かして遊ぶようにした。子どもたちがどの子も楽しみながら友だちを増やすことができるように、生活科を中心に音楽科や体育科と関連した授業を行った。
- ・活動後には、仲良くなった先生のことをもっと詳しく知るために、「先生インタビュー」の活動や、上級生ともっと仲良くなり、学校のことを詳しく知るために、「2年生と学校探検」の活動を設定して、人間関係が繋がり、学びが広がりをもつようにした。



「5年生のお姉さんにも友だちになってもらい、サインしてもらっている様子」

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

②	自立心	友だちとのかかわりを喜び、かかわりの中で自分の思いを伝える。
③	協同性	新しい友だちを作ろうと、積極的にかかわろうとし、友だちと活動を一緒に楽しむ。
④	道徳性・規範意識の芽生え	活動する上で必要なルールを守りながら、みんなで気持ちよく活動しようとする。
⑨	言葉による伝え合い	新しい友だちを作るために、自分のことや思ったことを言葉でやりとりをする。
⑩	豊かな感性と表現	音楽やリズムに合わせて、体を動かすことを友だちと一緒に楽しむ。

II 住吉小学校

1 活動名

ぐんぐんタイム「ひらがなを書こう」 (1年生 4月～)

2 活動時期の子どもの実態

小学校に入学し、はじめての学校生活、はじめて会う友達にわくわくしている。予定を伝えると、教科に関する知識を子どもたち同士で伝え合うなど、今日はどんなことをやるのか楽しみにしている姿が見られる。また、週の予定を保護者と一緒に読んで学校の準備をしている子がいたり、給食の献立を毎日確認してくる子がいたり、文字に興味をもって生活している。このように、子どもたちは学習する事に対してとても意欲的で、学習したことをすぐに生活の中で生かそうとする子がたくさんいる。

3 活動のねらい

小学校では、多くの文字を学習する。1年生は、平仮名、片仮名、漢字を学習する。文字は、今後の生活に関わってくるものである。そのため、子どもたちには、平仮名や片仮名などに興味をもち、主体的に取り組んでほしいと願っている。

4月、1年生は期待に満ち溢れ、学習に対して意欲が高い。その意欲を学習に活かすために、ひらがなを掲示したり読み聞かせを行うなど文字環境を整えたり、何のために学習をするのか目的意識をもたせたりする。

4 活動の考察

4月、おはよう黑板や支度の手順に書いてある文字を一つ一つ追っていきながら、何が書いてあるのか読もうとする姿が見られた。多くの子どもたちは、ひらがなが読める。お互いに読み合いながら、確認し合っている姿もあった。

平仮名の学習は、「つ」や「し」など、一画で書ける平仮名から始まる。自分の名前に入っている文字を学習する前は、その字を使う子は立ち、リズムに合わせて名前を呼ぶようにした。そう

することで、新しくできた友達の名前と顔を覚える機会になった。また、「ぼくの字だ。」「同じ字を使っていたんだね。」と声をかけ合ったり、「昨日は、めをやったから、今日はぬじゃないかな。」と習う字を予測して楽しんだりしている姿があった。平仮名の学習が進んでくると、学習した文字も増え、休み時間に手紙で思いを伝えてくる子がいた。

平仮名の指導では、はね、とめ、はらい、まがり、おれの指導の他に、線の長さ、バランスなども声をかけた。平仮名の学習が進んでくると、子ども達の方から「平仮名の〈は〉と〈ほ〉は、しずくちゃんの仲間だね。」「〈ま〉は、二本目の横棒が短いよ。」など仲間わけをしたりバランスに気をつけようとする声かけをしたりしていた。

4月から平仮名指導、6月から片仮名指導、9月から漢字指導を始めた。現在、平仮名で学習したはね、とめ、はらい、まがり、とめやバランスに気をつけて漢字を書き取りする姿がある。また、文字に興味をもち、自分の名前を漢字で書いたり、自由画帳に漢字を書いて漢字を集めたりするなど、学習に対して意欲的な姿を見せている。



「持ちにくいけれど、はみ出さないで書くよ。」

5 指導のポイント

(1) えんぴつ指導

正しい持ち方で文字を書くことが難しい児童、手首が硬く曲線がうまく書けない児童など、4月当初は個人差が見られる。そのため、4月1週目はなぞり書きプリントや色塗りを行い、正しい鉛筆の持ち方に慣れさせたり、手首を柔らかく動かせるようにしたりしていく。

(2) 文字の指導

子どもが書いた平仮名は、初めからバランスやはねとめはらいなど細かい部分は指導しないようにする。書き始めの時期は、持ち方や手首の柔らかさに加え、力加減を自分で調節することが難しい。子どもの成長を把握しながら、段階を追ってバランスやはね、とめ、はらいなどに気をつけていくように指導していく。ただし、教師が子どもに平仮名を提示するときは、書くときのポイントは伝え、自分で意識できるようにする。

(3) 文字環境

おはよう黒板、板書は、大きい文字ではっきりと書くようにする。また、分かち書きにすることで、子どもたちが言葉のまとまりに気をつけて読めるようにする。

「なかよしタイム」の読み聞かせを活用して、言葉に興味をもたせるようにする。読み聞かせした本は、話の面白さはもちろん、言葉のリズムや言葉遊び、聞きやすさなどにも視点をあてて、学校司書に選書した。選書した本は、学年廊下の本棚に置き、教師が読んだ本を子どもたちがいつでも手に取れる環境をつくる。

(4) 「なかよしタイム」、「わくわくタイム」との関連

「なかよしタイム」では、読み聞かせや友達の名前集めなど、文字が身近に感じるような内容も取り扱う。

「わくわくタイム」では、学校探検に行った時、探検した教室の「〇〇室(しつ)」という音や春見つけでみつけた「つくし」の音を強調することで、初めて習う平仮名「し」「つ」に意識を向ける。探検で見つけた物と平仮名指導の関連を図る。例) てっきん、もっきん=促音 すず=濁音、濁点



「自分の名前を最後まで
しっかり書けたよ。」

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

⑧	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の学校探検で見つけてきた物の名前、教室から、平仮名の学習に対して関心意欲を高める。 文字が生活に繋がっていることに気づき、読んだり書いたりすることを楽しむ。
⑨	言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や物語に親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付ける。
⑩	豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかったこと、きれいなものや素晴らしいものを見たり聞いたりして、自分の表現に生かそうとする。

Ⅲ 中央小学校

1 活動名

わくわくタイム「中央探検隊になって、学校の中の数を見つけよう」（1年生 4・5月）

2 活動時期の子どもの実態

小学校に入学し、子どもたちは初めての学校、初めての勉強、初めての友達に対し、わくわくどきどきしている。はやく勉強がしたい、学校の中を探検したいと、やってみたいことばかりで意欲的に活動に取り組んでいる。なかよしタイムで子どもたち同士の距離が近くなり、違う園から来た友達とも関わり合いながら、仲良く生活する姿が見られた。

3 活動のねらい

わくわくタイムは、生活科として扱われ、合科的・関連的な授業を行い、学校生活に慣れる時間である。この活動は、生活科と算数の合科をねらい、設定した。この活動を通して、学校の中には様々な教室や設備があること、多くの児童や教職員がいることを知り、安心して学校生活を送ることができるという従来の学校探検の目的に加え、算数の「10までのかず」のものの個数を数える活動を通して、数の意味について理解し10までの数を用いることができるようにすることをねらっている。

4 活動の考察

1～10の数を見つけたり数えたりしながら、学校探検を行った。子どもたちは探検の中で、「〇〇に△△が□個あったよ」と場所と数を結びつけながら、学校内を見て回ることができていた。単に学校の中を探検するだけではなく、数を見つけてくるという課題を与えることで、必然的に「どこに」という場所を考えて探検をしている姿を見ることができた。また、保健室を利用したことがある子は、友達を連れて



保健室へ行ったり、兄弟がいる子は、兄弟の教室を探してその中で数を見つけたりと、子どもたちが思いをもって活動する姿も見ることができた。

探した数はワークシートに絵や言葉でまとめ、クラスで発表した。発表していく中で、教室や廊下にある電気、白衣、蛇口はどれも同じ数であることに気付いた。また、校長室や音楽室などの特別教室で見つけた子から、聞いたことや見たことのない言葉を聞くと、そこに行ってみたいという興味関心が高まった。その後、生活科の学習では、グループを組んで特別教室に何があるのかを調べる活動に繋がっていった。

学校探検は1～3、4・5、6～8、9・10と4回に分けて行った。数の読み書きの勉強をした後で、探検を行うことで、繰り返し数に触れることができ、習得にも繋が

った。学校探検と10までの数を、別々の単元で扱うのではなく、合科的・関連的に「わくわくタイム」として扱うことで、子どもたちの意欲が持続し、必要感をもって活動に参加できたのではないかと考える。

5 指導のポイント

(1) 活動の流れ

- ・活動の初めに、子どもたちに「中央探検隊になって、中央小学校のことをたくさん知ろう。」と呼び掛けた。まず各学級で担任が、後の学校探検で注意してほしい箇所を中心に校内を案内した。危険な場所、通っていい場所、入ってはいけない教室、特別教室等を説明したり、学校のきまりである「まごころ歩き」を実際に行ってみたりした。その後、教室で再度学校探検のきまりを押さえ、活動に入った。【生活科】



「3年生の廊下で数を探しながら歩いている様子。
静かにきまりを守ることができました。」

- ・活動の前後は教室で、数の学習を行った。その際、「どこに何個」と、場所と数を板書し、結びつけられるようにした。【算数】

(2) 学校探検のきまりについて

- ・生活科の授業だけでなく、国語の授業でも、職員室や校長室、他の教室に入る際の言葉や、学校のきまりを学習した。(国語：あかるいあいさつ)
- ・特に学校のきまりである「まごころ歩き」については、学年や学級で指導し、活動中に守ることができていた子どもへ価値付けをして広めていった。

6 「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」10項目との関連

②	自立心	これから自分が生活する学校について知り、環境に主体的に関わり、様々な活動に取り組む。
③	協同性	新しい友達ともやりとりをしながら、一緒に同じ活動に参加し、楽しく取り組む。
④	道徳性・規範意識の芽生え	学校生活を送る上での、必要なルールを守って生活しようとする。
⑧	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	学校内にある教室や設備に関係する数字に関心をも。探検で見つけた数字を書いたり、数字を使って遊んだりすることで、生活を学習に結びつける。
⑨	言葉による伝え合い	探検中に教室や設備、そこに関わる数について友達と伝え合う。

6 本時の目標

身の回りの箱を実際に転がして試したり、面の形を観察したりしながら分類する活動を通して、「平ら」などの立体の形状を捉え、転がるという機能的な性質について考える。＜思考力・判断力・表現力等＞



本単元と幼児期に育ってほしい姿との関連

- ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり
⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性

⑥思考力の芽生え

- ・遊びや生活の中で、身の回りの形の性質や仕組みに気付き、生活の中に生かそうとする。
- ・考えたことを友だちと伝え合ったり、話し合ったりして互いに理解する。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・遊びや生活の中で、様々な形や大きさの違いに気付き、形の違いや面白さを感じる。

7 本時の展開

時間・形態	学習内容	・支援、留意点 ◎評価
5分 グループ (4人)	<p>○今日は、箱や入れ物を転がして、かたちのひみつを見つけよう。</p> <p>箱や入れ物を、転がるものと転がらないものに分けてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポテトチップスの入れ物とボールは、転がる。 ・四角い箱は、すべるだけだね。 <p>どうして、転がるのかな。どうして転がらないのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動への意欲を高めるために前時では、箱や入れ物を積んで、かたちのひみつを見つけることができたことを褒める。 ・解決の見通しをもたせるために、面の形に注目して考えることを押さえる。 ・抽出児U・K 考えをもつことができるように、最初は、教師が具体物の面を示しながら一緒に考える。
10分 個 ↓ グループ	<p>○どうしたら分かるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転がるものと転がらないものを比べてみるよ。 ・転がるのは、丸いよね。 ・平べったいと、転がらないと思うよ。 ・角があるところで止まっちゃう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面に対する理解を深めさせるために、「丸だと転がる」という考えに対して、円柱の平面の丸はどうか切り返し、児童同士の対話のきっかけをつくる。 ・抽出児W・N 円柱（チーズの箱・ポテトチップスの箱）について説明させることによって、活躍の場を設ける。
25分 全体	<p>○話し合っ、整理しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱は平べったいから置くと、転がっていかない。 ・箱は、転がらない。なぜかという、角のところでひっかかって止まっちゃうからじゃないの。 ・筒の形やボールは、丸いから転がる。 <p>★でも、ポテトチップスの箱のここも丸いよ。こうすると転がらないよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほんとだ。ここも丸い。こういう向きなら転がる。丸は丸でも、くるりんってしてないとだめ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎箱から面の形を見つけ、その形状を捉えて転がる・転がらないの機能と結びつけて考えている。 (発言・ワークシート)
5分 全体	<p>○学習のまとめをしよう。</p> <p>タイヤや丸太みたいに、くるりん丸いところがあると転がる。平らなところや角がある形は転がらない。</p>	

8 本時の視点

幼児期までに積み木や箱を使った制作活動をしなが、形に関心をもっている児童（形を漠然と捉え、図形として認識するまでには至っていない児童）が、実際に転がして試したり、面の形を観察したりして、複数の箱を分類する活動を通して、平らなどの立体の形状を捉え、転がるという機能的な性質について考えることにつながったか。

9 抽出児の評価

(支援を要する児童に寄り添う視点)

U・K：ピーナッツプロフィールにおいて、⑥思考力の芽生えの評価1

自ら、色や大きさ、材質にとらわれずに、面の形を見つけることができています。

(よい表れのある児童を全体へ広める視点)

W・N：ピーナッツプロフィールにおいて、⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚の評価3

見つけにくいと思われる形についての気付きを全体に広めることで更に、図形への関心を高めている。

1 日時 平成30年10月29日(月)第4校時

2 場所 体育館

3 単元名 「秋の楽しいおもちゃをつくろう」～年長さんをお店屋さんに招待しよう～

4 単元の目標

- ・楽しいおもちゃを作り、年長さんと一緒に楽しむことができた自分のよさや、身近な秋の自然の面白さに気付く。
(知識及び技能の基礎)
- ・年長さんが喜ぶ楽しいおもちゃにするために、身近な秋の自然を使って工夫しておもちゃを作ったり、遊び方を考えたりする。
(思考力、判断力、表現力等の基礎)
- ・友だちと関わりながら協力しておもちゃを作ったり、年長さんに積極的に関わったりする。
(学びに向かう力、人間性等)

5 単元計画と他教科との関連(全14時間計画)

小単元	時間	学習活動	□評価規準
おもちゃをつくらせてあそぼう	1	まつぼっくりのおもちゃを作ってあそぼう。 ・集めたまつぼっくりを使って、まつぼっくりのけん玉を作って、今後の意欲を高める。 ・けん玉選手権を開いて、クラス全員で遊ぶ。	学 集めたまつぼっくりを使って、おもちゃを作る活動を通して、友だちと関わりながら楽しく作ったり、遊んだりしている。
	2	どんぐりのおもちゃを作ってあそぼう。 ・集めたどんぐりを使って、どんぐりごまを作って、今後の意欲を高める。 ・グループごと、どんぐりごま対決をして遊ぶ。	学 集めたどんぐりを使って、おもちゃを作る活動を通して、友だちと関わりながら楽しく作ったり、遊んだりしている。
計画を立てよう	3	秋のものを使ってどんなことをしたいか考えて、計画を立てよう。 ・集めてきた秋のものでどんなことをしたいか思いをもつ。 ・児童の思いをもとに、今後の活動計画を立てる。 ・どんなおもちゃを作り、どんなお店を開くのか決め、分担をする。	学 身近な自然や年長さんと関わりながら学習することの計画を立てる活動を通して、自分の思いや願いをもって取り組もうとしている。
年長さんと楽しむために工夫してつくろう	4・5	楽しいおもちゃになるためには、どうすればよいだろう。 ・秋のものでおもちゃを作る。 ・より楽しいおもちゃになるように工夫する。	知 身近な秋を使った楽しい遊びを作り出せる面白さに気付いている。
	6・7	年長さんと楽しむおもちゃにするために、おもちゃをレベルアップさせるには、どうすればよいだろう。 ・自分たちが作ったおもちゃでたくさん遊ぶ。 ・もっと素敵なおもちゃになるために、レベルアップさせる。	思 集めた自然物の中から使ってみたい物を選び、試したり、比べたりする活動を通して、もっと楽しいおもちゃになるために工夫している。
	8	年長さんと楽しむためには、どんな遊び方にすればよいだろう。 ・年長さんと一緒に楽しむための遊び方やルールをグループごとで考える。	思 自分のお店屋さんの遊びのルールやきまりを考える活動を通して、年長さんと楽しむために遊び方やルールを工夫して考えている。
	9 本時	年長さんと楽しむためには、どんな工夫をプラスすればよいだろう。 ・年長さんを招待する練習をする。 ・友だちのお店のよかったところを見つける。 ・よりよくするためには、どうすればよいのか考える。	思 友だちのお店のよいところを見つけたり、同じグループの友だちと話し合ったりすることを通して、自分たちのお店のよさに気づき、お店をよりよくするにはどうすればよいのか考えている。
	10	2年生は、どんなところに気をつけて、お店屋さんを開いているのか調べてこよう。 ・2年生のおもちゃランドに行き、ヒントをもらう。 ・自分たちも真似したいところを見つける。	知 2年生のおもちゃランドに招待してもらった活動を通して、2年生のよさに気付いている。
	11・12	お店屋さんを完成させよう。 ・前時までの学習をいかしてお店屋さんを完成させる。 ・年長さんを招待する準備をする。	思 前時までの学習をいかしてお店の完成させる活動を通して、年長さんと一緒に楽しむために、工夫して考えている。
招待しよう 年長さん	13・14	年長さんをお店屋さんに招待して、一緒に楽しもう。 ・年長さんをお店屋さんに招待する。 ・自分たちの活動を振り返る。	学 年長さんを喜ばせたり、一緒に楽しんだりするために、積極的に関わり、優しく接している。

※評価の観点の表記 知識・技能の基礎→知 思考力・判断力・表現力等の基礎→思 学びに向かう力、人間性等→学

6 本時の目標

友だちのお店のよいところを見つけたり、同じグループの友だちと話し合ったりすることを通して、自分たちのお店のよさに気づき、お店をよりよくするにはどうすればよいか考える。

〈思考力、判断力、表現力等の基礎〉

本単元と幼児期に育てほしい姿との関連

- ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり
⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性

③協同性

・おもちゃをより楽しくするために、積極的に友だちと考えを伝え合い、協力して遊びを進展させようとする。

⑥思考力の芽生え

・秋のものの性質や身近な材料のよさに気付く。
 ・秋のものや身近な材料を工夫して遊びの中に取り入れたり、遊び方やルールを工夫したりする。

7 本時の展開

時間・形態	学習内容	・支援、留意点 ◎評価		
5分	友だちのお店屋さんに行って、よいところを見つけよう。	・お店屋さんごとAグループとBグループに分かれて、お店屋さん役とお客さん役を交互に行うことを伝える。		
15分 A ↓ B	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び方が詳しく決まっていたお店があったから、遊びやすかったよ。 ・気に入ったおもちゃを選ばせてもらって嬉しかったよ。 ・輪投げを近くから投げさせてもらったから、たくさん入って楽しかったよ。 ・遊んだ後に、景品をもらうことができたから、遊んでよかったなと思ったよ。真似してみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のお店と比べながら、友だちのお店のいいところを見つけることを伝える。 ・グループごと、もっと楽しいお店になるためにどうすればよいか話し合うことができるように、働きかける。その際に、友だちのお店のよいところを取り入れたり、遊び方やルールを変えたりしてもよいことを伝える。 ・その後、話し合ったことを発表し、全体で共有する。 		
20分 グループ ↓ 全体	<p>年長さんと楽しむためには、どんな工夫をプラスすればよいだろう。</p> <table border="1"> <tr> <td> 〈どんぐりごまたいけつ〉 ・景品をあげることにしたから、みんな楽しそうだったね。 ・負けちゃった子が少しかわいそうかもしれないな。 ・負けた子には、「またきてね」のカードをあげて、何回でも挑戦できるようにしてみようかな。 </td> <td> 〈まつぼっくりのわなげ〉 ・投げる位置を4段階にして、年長さんに選ばせてあげたけど、ぜんぶやらせてあげてもいいかな。 ・みんなもやりたそうだったよね。 ・だんだん近くにしたり、遠くにしたりしても、面白そうだね。 </td> </tr> </table>	〈どんぐりごまたいけつ〉 ・景品をあげることにしたから、みんな楽しそうだったね。 ・負けちゃった子が少しかわいそうかもしれないな。 ・負けた子には、「またきてね」のカードをあげて、何回でも挑戦できるようにしてみようかな。	〈まつぼっくりのわなげ〉 ・投げる位置を4段階にして、年長さんに選ばせてあげたけど、ぜんぶやらせてあげてもいいかな。 ・みんなもやりたそうだったよね。 ・だんだん近くにしたり、遠くにしたりしても、面白そうだね。	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出児W・K 友だちの意見に耳を傾けながら、自分の考えを伝えることができるように、話の仲介をするなど、一緒に活動する。 ・抽出時M・T 工夫したいことを全体へ広める場を設ける。
〈どんぐりごまたいけつ〉 ・景品をあげることにしたから、みんな楽しそうだったね。 ・負けちゃった子が少しかわいそうかもしれないな。 ・負けた子には、「またきてね」のカードをあげて、何回でも挑戦できるようにしてみようかな。	〈まつぼっくりのわなげ〉 ・投げる位置を4段階にして、年長さんに選ばせてあげたけど、ぜんぶやらせてあげてもいいかな。 ・みんなもやりたそうだったよね。 ・だんだん近くにしたり、遠くにしたりしても、面白そうだね。			
5分 個人	<p>◎今日の活動を振り返えろう。</p> <table border="1"> <tr> <td> 〈どんぐりごまたいけつ〉 ・グループで話し合いをしたら、負けた子にもカードをあげるようになったよ。次の時間に頑張って作るよ。 </td> <td> 〈まつぼっくりのわなげ〉 ・投げる場所を4段階にしておいて、楽しんでもらえてよかったよ。遊び方を変えてみて、もっと楽しくするよ。 </td> </tr> </table>	〈どんぐりごまたいけつ〉 ・グループで話し合いをしたら、負けた子にもカードをあげるようになったよ。次の時間に頑張って作るよ。	〈まつぼっくりのわなげ〉 ・投げる場所を4段階にしておいて、楽しんでもらえてよかったよ。遊び方を変えてみて、もっと楽しくするよ。	<p>◎友だちのお店のよいところを見つけたり、同じグループの友だちと話し合ったりすることを通して、自分たちのお店のよさに気づき、お店をよりよくするにはどうすればよいか考えている。(発言・行動・ワークシート)</p>
〈どんぐりごまたいけつ〉 ・グループで話し合いをしたら、負けた子にもカードをあげるようになったよ。次の時間に頑張って作るよ。	〈まつぼっくりのわなげ〉 ・投げる場所を4段階にしておいて、楽しんでもらえてよかったよ。遊び方を変えてみて、もっと楽しくするよ。			

8 本時の視点

自分の思いや経験を生かして、おもちゃを作り、遊び方やルールを考えてきた児童が、違うお店の友だちや同じグループの友だちとの交流を通して、自分たちのお店のよさに気づき、お店をよりよくすることにつながったか。

9 抽出児の評価

(支援を要する児童に寄り添う視点)

W・K：ピーナッツプロフィールにおいて、③協同性の評価2

同じお店の友だちとの交流の中で、友だちの意見に耳を傾けながら、自分の考えを伝えることができている。

(よい表れのある児童を全体へ広める視点)

M・T：ピーナッツプロフィールにおいて、⑥思考力芽生えの評価3

友だちの工夫や考えのよさに気づき、グループの友だちに伝え、更にどんな工夫ができるか考えている。

<p>1 単元について</p> <p>(1) 単元名 「いくつと いくつ」</p> <p>(2) 単元目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの数 (5 から 10) をほかの数の和や差としてみる。 <知識及び技能> ・ゲーム (いくつといくつを考える) の目的を達成するために、数を分けたり、くっつけたりしながら、数の構成を考える。 <思考・判断・表現力等> ・半具体物を使った操作活動やゲームに取り組むことを通して、算数的活動の楽しさを感じる。 <学びに向かう力、人間性等> <p>(3) 本時の目標</p> <p>おはじきの操作やゲームに取り組むことを通して、数を2つに分けたり、くっつけたりしながら7・8の数の構成を考える。 <思考・判断・表現力等></p>
--

<p>2 本単元と幼児期に育ってほしい姿との関連</p> <p>(1) 本単元で伸ばしたい姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>①健康な心と体 <input type="checkbox"/>②自立心 <input checked="" type="checkbox"/>③協同性 <input type="checkbox"/>④道徳性・規範意識の芽生え <input type="checkbox"/>⑤社会生活との関わり <input type="checkbox"/>⑥思考力の芽生え <input type="checkbox"/>⑦自然との関わり・生命尊重 <input checked="" type="checkbox"/>⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 <input type="checkbox"/>⑨言葉による伝え合い <input type="checkbox"/>⑩豊かな感性 <p>(2) 本時で目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで合図を出してさいころを振ったり、カードのペアを作って確認したりする姿。 <③協同性> ・ペアで、ゲーム (数構成) の目的を達成しようと、一つの数をいくつといくつに分けたり、くっつけたりして考える姿 <⑧数量や図形、標識や文字への関心・感覚>

3 本時の展開

時間	学習内容	・支援、留意点 ○評価
5分	○2色のブロックで7を工夫して出してみよう。 ・7は、2と5だよ。 ・4とあと3で7。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ペアさんと7・8の「かずゲーム」をしよう。</div>	・ゲームに取り組むために大事な考え方※を復習する。 ※○と○で□、□は○とあと○ ・本時の活動への見通しと意欲をもたせるために、3つのゲームを紹介する。
10分	ゲーム①「さいころで7をつくろう」 ・2人で同時にさいころを振り、あわせて7の目になったら記録用紙に○を書く。3分で5回できたら勝ち。 ・4と3で7になったよ！1だ6ならよかったなあ。	・ゲームのやり方を理解させるために、始めに教師と児童一人がやって見せる。 ○抽出児W・N お互いに合図を出してさいころを振ったり、7になったら喜んだりしている。
10分	ゲーム②「8になるペアカードを見つけよう」 ・それぞれ、1から7の数カードを広げて、8になる2枚のカードを全部組み合わせる。二人ともできたら記録用紙に○。また混ぜてやり3分で5回できたら勝ち。 ・1と7、2とあと6、4は4とペアだね。	支援：最初は、教師と一緒にやる。 ○抽出児T・S 8の構成を考えて意欲的に答えたり、ペアに正解を教えたりしている。
15分	ゲーム③「かくれているのはいくつかな」 ・8個のおはじきをマグネット版に貼り、一人が片方の手でいくつかを隠す。もう一人が隠れている数を当てる。(練習1回・本番3回) ・8になるには2とあと6だよ。分からなかったら、おはじきを動かして考えればいいね。 ←☆☆☆☆☆☆☆☆ ・指を使ってやると早くできるよ。	支援：練習の後、おはじきや指を使った考え方を全体に説明するよう促す。
5分	○今日の授業の振り返りをしよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・ゲームに勝ったから、うれしかったよ。 ・8のゲームが難しかったけどできたよ。</div>	・ゲームの後に、個々に8の構成をまとめる。 ○友だちと協力してゲームに取り組みながら、数の構成を考えている。(発言・行動) ・次時への意欲をもたせるために、教師から、本時のよかったところと次は9と10のゲームをすることを伝える。

4 本時の視点と抽出児の評価

ペアで数構成のゲームに取り組ませる算数的活動を設定したことが、一人一人が進んで7・8を2つの数へ分解したり、合成したりして考える姿、共通の目的に向かって協力する姿につながったか。

(抽出児)

W・N：③協同性の項目でステップ2 (吉田町幼児教育カリキュラム「ピーナッツプロフィール」)

周りの状況や友だちの様子を見て行動することが苦手である。(幼児指導要録の所見)

評価の視点：ペアの友だちと一緒にゲームに取り組むことを楽しみ、できたことで達成感を感じているか。

T・S：⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚の項目でステップ3

数への関心が高く、算数を意欲的に学習している。(入学後の学習の様子)

評価の視点：7・8の数の構成の考え方を説明したり、率先してゲームに取り組んだりしているか。

授業者 酒井 友美

場所 1年2組教室

日時 5月16日(水) 第3校時

1 単元について

(1) 単元名 「がっこうだいすき」

(2) 単元目標

- ・学校の中の施設の位置や役割、学校を支えてくれている人々の存在について気付いたり、学校の施設はみんなのものであること、みんなで気持ちよく生活するためのきまりがあることに気付いたりする。

(知識及び技能の基礎)

- ・行ってみたい場所や聞いてみたいことなどを選び、先生方や友だちと関わり合いながら、自分たちの活動を振り返り、めあてを見つけている。

(思考力、判断力、表現力等の基礎)

- ・学校の施設や学校を支えてくれている人々、友だちなどに関心をもって関わろうとし、思いや願いをもって楽しく安心して遊んだり、生活したりしようとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

(3) 本時の目標

学校探検で気付いたことや思ったことを、絵カードを使いながら友だちに伝えるを通して、学校にはさまざまな施設があることや学校を支えてくれている先生方のことについて理解を深め、楽しく安心して遊びや生活をしようとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

2 本単元と幼児期に育ってほしい姿との関連

(1) 「幼児期に育って欲しい姿」10の項目との関連

①健康な心と体 ②自立心 ③協同性

④道徳性・規範意識の芽生え

■⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え

⑦自然との関わり・生命尊重

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

■⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性

(2) 本時で目指す児童の姿

- ・学校探検で気付いたことや思ったことを、絵カードを使いながら友だちに言葉で伝えたり、友だちの話を興味をもって聞いたりする。

(⑨言葉による伝え合い)

3 本時の展開

時間	学習内容	・支援、留意点 ○評価
5分	みつけたことやわかったことをみんなにおはなししよう。	前時の活動 ・学校探検で心に残ったことを絵に表す。(図工) ・クラスの友だちに話をする時には、声の大きさや速さに気を付けることや、話を聞く時には、相手の方をしっかり見て聞くことなど、大切なことを事前に子どもたちと確認する。 ・恥ずかしがらずに伝えることができるように、まず、3～4人のグループで伝え合い、声の大きさや速さを意識している児童に価値付ける。 ・グループで伝え合ったことを、全体で共有する。 ・自分の思いや気付きをうまく言えない子に対しては、教師が引き出すような切り返しの質問をする。 ・聞いている子どもたちの発言も大切に、取り上げ、発表に關しての感想や疑問は、全体で共有する。 ・子どもたちが友だちの発言につなげて、発表ができるように、話したことを部屋の場所がわかる拡大図にまとめている。
10分	(グループ活動) ・私は、2年生と学校探検に行った時に、図書室に本がいっぱいあることが分かりました。早く借りてみたいです。 ・私も行ってみたいな。今度一緒に行こう。	○抽出児W・K 順序よく気付いたことや思ったことを友だちに伝え、友だちの話を最後まで聞いている。 支援：話の聞き方を伝え、価値付ける。
25分	(全体で共有) ・ぼくは、学校探検をしている時に、6年生が一生懸命勉強しているところを見ました。ぼくも、6年生みたいに勉強を頑張りたいです。 ・私も6年生にいつも優しくしてもらっているから、6年生みたいになりたいな。 ・ぼくは、校長室に行ったよ。校長先生がいて、サインをもらったよ。 ・羨ましいな。校長室には、何があったの？	○抽出児M・T 友だちの発言に興味をもって聞き、感想を言ったり、質問をしたりしている。 支援：友だちの発言を聞いて、思ったことを言うように促し、言えたら価値付けて全体に広める。 ・全員の発表終了後に、友だちの発表を聞いてどうだったかペアと話し合った後、全体に共有する。
5分	○今日友だちのお話を聞いて、どんなことを思いましたか。 ・学校には、たくさんの先生たちがいて、勉強を教えてくれていることがわかりました。 ・私も校長室に行ってみたくなくなりました。 ・学校には、たくさん楽しいところがあることがわかったので、私も使ってみみたいです。	○学校にはさまざまな施設があることや学校を支えてくれている先生方のことについて理解を深め、楽しく安心して遊びや生活ができることに気付いている。(発言・行動)

4 本時の視点と抽出児の評価

学校探検で気付いたことや思ったことを、絵カードを使いながら友だちに言葉で伝えたり、友だちの話を興味をもって聞いたりしたことは、学校にはさまざまな施設があることや学校を支えてくれている先生方のことについて理解を深め、楽しく安心して遊びや生活をしようとする姿につながったか。

(抽出児)

W・K：⑨言葉による伝え合いのステップ2 (吉田町幼児教育カリキュラム「ピーナッツプロフィール」)

言葉で人と関わることが苦手な自分本位の言動が目立つ。(幼児指導要録の所見)

評価の視点：順序よく気付いたことや思ったことを友だちに伝え、友だちの話を最後まで聞いている。

M・T：⑨言葉による伝え合いのステップ3 (吉田町幼児教育カリキュラム「ピーナッツプロフィール」)

友だちに声をかけて助けたり、友だちの話を最後まで聞いたりすることができる。(入学後の様子)

評価の視点：友だちの発言に興味をもって聞き、感想を言ったり、質問をしたりしている。

11 吉田町幼児教育カリキュラム

①健康な心と体

集団生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



項目	発達過程における育てたい子どもの姿	指導の留意点
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 様々な遊びの中で、遊具を使ったり、体を思いきり動かしたりして遊びを楽しむ。 様々な食べ物に興味・関心をもつ。 健康で安全に過ごすためのルールがあることを知る。(遊び方、身支度、避難、手洗い・うがい、早寝・早起きなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者も一緒に体を動かして遊び、楽しさを共有する。 子どもとの関わりの中で一人ひとりとの信頼関係を築き、安心して生活できるようにする。 野菜や食べ物に関する絵本やペーパーサート、写真などを掲示する。また、育てる場をつくる。 様々な場面を想定しながら、どんなルールがあるかを知らせていく。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> 暑さや寒さに負けずに、戸外でいろいろな運動遊びや集団遊びを楽しむ。 友達と楽しく食べることでいろいろな味に親しむ。 生活や遊びのルールを守って行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者も一緒に遊びながら、戸外で積極的に体を動かすことの楽しさ、気持ちよさを伝える。 一人ひとりが好きな遊びや場所を見つけて安心して過ごせるよう見守る。 ボールや縄跳びなど、体を動かして遊べるように玩具や道具を用意する。 食べる意欲が増すようなクイズを取り入れるなど、食事の楽しい雰囲気づくりを心掛ける。 ルールを子ども達に問いかけ、一緒に考える機会をつくる。また、意識できるような環境づくりをする。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> 目標をもって挑戦したり、諦めずにやり通すことで達成感を味わい、様々な遊びや生活に意欲的に取り組む心をもつ。 野菜を育てたり、収穫したりして、食に感謝し、美味しさを味わう。 自分で判断しながら、生活や遊びのルールを守って行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 挑戦する姿を認め、指導者も励ましながら、できたときの喜びを共有し意欲的に挑戦できるようにする。 栽培を振り返ったり、調理を計画したりしながら、食べ物を大切に、感謝する気持ちがもてるよう働きかける。

②自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



項目	発達過程における育てたい子どもの姿	指導の留意点
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 環境に慣れ、生活の流れを知り、基本的な生活習慣を身に付ける。(食事、着脱、排泄等) 自分のことは自分で行うが、できないことは助けを借りてやり遂げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが安心して頼れるような心の拠り所になり、気持ちを受け入れていく。 一人ひとりの発達の特性を捉え、指導者が個々にあった生活の支援を行っていく。 一日の生活の流れを朝の会などで知らせ、見通しをもって安心して活動できるようにする。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自分らしさを大切にするとともに互いに認め合いながら遊びや生活をする。 友達との関わりを喜び、関わりの中で自分の思いを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの頑張りを受け、自信がもてるような言葉かけをしていく。 友達との関わりの中で気持ちの行き違いや葛藤を受け止め、相手の気持ちに気づき、自分の気持ちに折り合いをつけられるような声かけをする。 相手の話を聞く場や自分の思いを話す場を設け、友達の考えや思いに気付けるようにする。また、自分の思いが伝わる喜びを感じることができるようになる。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標をもち、力を発揮して、苦手なことでも諦めずに挑戦する。 友達と協力し合い、一つのことを最後までやり遂げ、満足感や達成感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> できる、できないにとらわれずに何度でも挑戦することの大切さを知らせ、励ます。 活動や遊びを友達と共有し、何度も挑戦している姿を認めていく中で「自分も頑張ろう」という意欲をもたせていく。

③協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



項目	発達過程における育てたい子どもの姿	指導の留意点
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人、友達に興味をもち、関わろうとする。 相手にも思いや考えがあることを知る。 友達と一緒に遊びや生活をする中で、一緒に過ごす心地よさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が子どもと一緒に様々な遊びを楽しみながら遊び場を広げていく。 身近な友達に興味をもてるよう指導者が遊びに参加したり、遊びに誘ったりして仲立ちしていく。 友達の存在に気づき、その場に合った言葉や関わり方を伝えていく。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> 友達とやりとりしながら、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちがわかったりする。 友達と同じ活動に参加し、みんなで一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの思いを受け止め、代弁したり、共感したりしていく。 集団遊びを提供したり、子どもと一緒に遊びながら協力する楽しさを伝える。 思ったことや感じたことを表現し、友達の思いを認めながら活動に取り組む。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士で思いや考えを共有し、遊びや活動を充実させていく。 応援したり、励まし合ったりすることで同じ目標をみんなで達成する喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや活動を充実させるために、時には子ども同士で考えたり、伝え合ったりできるような場を設定する。 生活の中で、協同的に学ぶことの楽しさや充実感を味わえるような機会をつくる。 友達の頑張っている姿を、励ましたり、応援したりする姿を認める。 自分達で目標に向かって活動を進めようとする気持ちをもてるように、日程や流れを図などで示し、活動に見通しを持たせる。

④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。



項目	発達過程における育てたい子どもの姿	指導の留意点
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で良いことや悪いことに気付く。 身近な物を大切ににする。 集団生活に必要なきまりやルールの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや活動の前にきまりやルールをわかりやすく伝える。 生活の中で物の大切さについて伝えていく。 遊びの中で思い通りにならない時などの場面では、気持ちを受け止めたり、どうしたらいいのかを一緒に考えたりする。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを理解し、自分で良いことと悪いことを判断して行動する。 必要なルールを守って生活しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、つまずいた時、どうすれば解決するかを一緒に考える。 子ども達が必要なきまりやルールに気付くような機会をもつ。 我慢できたり、相手の気持ちを考えられたりしたときにたくさんほめて自信につなげる。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを調整し、折り合いを付けるようになる。 友達や周りに目を向け、思いやりや感謝の気持ちをもつ。 生活したり、遊んだりしやすいように自分達でルールや決まりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が先回りして解決せず、子どもが判断できるように見守ったり、援助したりする。 自分達で必要なきまりやルールを作り、守ることができるように促す。 指導者が一人ひとりのよさを認め、全体にも伝えていくことで友達によさに気付くようにする。

⑤社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。



項目	発達過程における育てたい子どもの姿	指導の留意点
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 家族や地域の人に進んで挨拶ができるようになる。 地域のことに興味・関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 散歩や園外活動などで出会った人に率先して挨拶をする。 公共施設を利用し、地域の人と関わる場を設定する。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に他者と関わりながら社会の中の事象をより深め楽しむ。 公共施設でのマナーを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々と進んで関わろうとする意識がもてるよう、触れ合う機会の場を設定する。 異年齢児との関わり場の場を設定し、進んで関わろうとする意識をもたせる。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割に責任をもって取り組むことで、人のためになることを知り、喜びを感じる。 公共施設でのマナーを守り、仲間と共同して利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や活動の中で役割を決めて、取り組む機会をつくる。 相手に感謝の気持ちを伝えたり、伝えられたりすることで喜びが感じられるようにする。 公共施設などの利用を通して、社会とのつながりを意識できるようにする。

⑥思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



項目	発達過程における育てたい子どもの姿	指導の留意点
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活を通していろいろな物事に興味や関心をもつ。 思ったことや感じたことを伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中から子ども達が興味・関心をもてるよう、様々な素材や遊べる場所を設ける。 子どもの考えを理解し、イメージを広げられるような言葉かけをする。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな体験を通して、想像したり、イメージを広げたりして試行錯誤する。 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞くけるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの遊びを十分に楽しめるように時間や場所を確保する。 絵本や図鑑を基に、自分の考えをもたせたり、友達の考えに興味をもたせたりするような関わりをする。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> 性質や仕組みに気付き、工夫して生活の中に活かそうとする。 考えたことを友達と伝え合ったり、話し合ったりして互いに理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものの性質や仕組みに気付き、予想したり、工夫したりするように、主体的にかかわる機会をつくる。 集団での取り組む場を設定し、自分の考えを友達と話し合う場面をつくる。

⑦自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたり、大切にすることを覚えるようになる。



項目	発達過程における育てたい子どもの姿	指導の留意点
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 身近な水、砂、土、草花や虫などに触れることを楽しむ。 自然の美しさや不思議に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が一緒に水、砂、土、草花や虫などに触れて遊びながら自然と親しむ機会をつくる。 戸外や園外に出かける機会を多くもち、身近な事象を敏感に受け止めて表現し、子どもの感動や考えを引き出していく。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> 季節の移り変わりに気付く。 栽培や飼育を通じて、身近な動植物の成長や生体に興味関心をもつ。 自然に親しんだり、自然物を使って工夫して遊ぶようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節や動植物に興味をもてるように絵本や図鑑を用意する。 自然物を遊びの中に取り入れ、環境を整えることで季節の変化を感じられるようにする。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然について、絵本を見たり、図鑑で調べたりして関心を深める。 身近な動植物を労わったり、大切にしたりして命の尊さに気付くようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が知りたいことを図鑑で調べたり、遊びの中に取り入れたりできるように環境を整える。 動植物の観察や世話を通して、子どもの発見や感動に共感するとともに、命あるもの大切さを感じたり、育てる責任をもてるようにする。

⑧数量・図形、文字等への関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



項目	発達過程における育てたい子どもの姿	指導の留意点
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で、記号やマークに親しみ、形や大きさの違いなどに気付く。 遊びの中で、形や大きさの違いなどに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達がわかりやすいように記号やマーク、文字などを使い環境を整える。 身近な場所に絵本を用意したり、読み聞かせをしたりする。 様々な形や大きさがあることに気付けるような言葉かけをする。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> 文字や数、図形等に興味・関心をもつ。 様々な形や大きさの違いに気づき、形の違いや、面白さ不思議さを感じ興味、関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で様々な標識や文字の存在に気付くように働きかける。 様々な色や形の玩具や素材などを用意し、その違いに気付くように援助する。 子どもが気付いた面白さ、不思議さに共感し、一緒に調べたり、発見したりする。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で数量を数えたり、比べたりする。 文字や数が生活に繋がっていることに気づき、読んだり、書いたりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、数や長さ、重さなどの違いに気付くような言葉かけをする。 遊びや生活の中で、文字や数に興味をもてるように働きかける。

⑨言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



項目	発達過程における育てたい子どもの姿	指導の留意点
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びに必要な言葉がわかり使おうとする。 絵本などを通して、言葉の面白さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が気持ちよく挨拶をする姿を見せたり、生活に必要な言葉を伝えたりする。 言葉の楽しさを感じられるように絵本や紙芝居などの読み聞かせをする。 子どもの言葉に耳を傾け、受け止めていく。 思いを十分に受け止め、自分の気持ちを伝えられるよう働きかける。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思ったことや感じたことを言葉で伝える。 絵本や紙芝居などを通して、ストーリーや言葉の面白さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの思いや感じたことに共感する。 いろいろな物を見たり、経験したりしていく中で、イメージが広がるように声かけをする。 自分の思い、要求、困ったことなどを言葉で伝えられるように生活の中で知らせていく。 言葉でやり取りする中で楽しさ、嬉しさを感じられるようにする。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> 友達と考え言葉で伝え合い、遊びを発展させていく。 相手や場面によって使う言葉を選んで話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の話を最後まで聞いたり、話し合いをしたりできるように援助する。 相手や場面に合った言葉づかいや話し方ができるように、指導者が見本となって見せたり、子どもと一緒に考えたりする。 自分の経験を話す機会をもち、相手に聞いてもらう喜びから自信をもって話ができるようにする。

⑩豊かな感性と表現

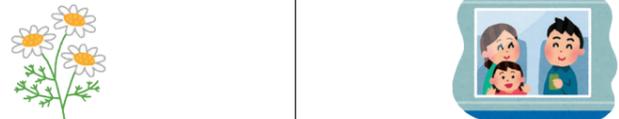
心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



項目	発達過程における育てたい子どもの姿	指導の留意点
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 音楽やリズムなどに合わせて、体を動かすことを楽しむ。 きれいなものを見たり、聞いたりして、美しさや表現する楽しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が楽しみ、親しめるような歌や手遊びなどの活動を設定し、感情を素直に表す姿を見守り、共感する。 様々な音色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりする経験ができるようにする。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことやイメージしたものを自分なりに工夫して作ろうとする。 感じたことを友達や指導者などに、言葉で伝え合ったり、表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことや考えたことなどを表現できる機会をつくる。 表現している姿を認め、子どもをほめたり、みんなに紹介したりして表現する意欲を高める。 子どもの気持ちに寄り添い、一緒に動きながら楽しさを味わえるようにする。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> 感じたり、感動したりして、作品を作る過程を楽しむ。 きれいなものや素晴らしいものを見たり聞いたりして、自分の表現に生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材や用具を用意し、自分で選び表現できる環境を設定する。 思考したり、表現したりしている子どもの姿を認め、達成感をもてるようにする。 美しいものに出会わせたり、一つの目標に向かってみんなで取り組む機会を設ける。

12 吉田町幼児教育カリキュラム「発達過程における育てたい子どもの姿」と

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一覧

項目	発達過程における育てたい子どもの姿			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
	ステップ1	ステップ2	ステップ3	
①健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> 様々な遊びの中で、遊具を使ったり、体を思いきり動かしたりして遊びを楽しむ。 様々な食べ物に興味・関心をもつ。 健康で安全に過ごすためのルールがあることを知る。(遊び方、身支度、避難、手洗い・うがい、早寝・早起きなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 暑さや寒さに負けずに、戸外でいろいろな運動遊びや集団遊びを楽しむ。 友達と楽しく食べることでいろいろな味に親しむ。 生活や遊びのルールを守って行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標をもって挑戦したり、諦めずにやり通すことで達成感を味わい、様々な遊びや生活に意欲的に取り組む心をもつ。 野菜を育てたり、収穫したりして、食に感謝し、美味しさを味わう。 自分で判断しながら、生活や遊びのルールを守って行動する。 	<p>集団生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</p> 
②自立心	<ul style="list-style-type: none"> 環境に慣れ、生活の流れを知り、基本的な生活習慣を身に付ける。(食事、着脱、排泄等) 自分のことは自分で行うが、できないことは助けを借りてやり遂げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自分らしさを大切にするとともに互いに認め合いながら遊びや生活をする。 友達との関わりを喜び、関わりの中で自分の思いを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標をもち、力を発揮して、苦手なことでも諦めずに挑戦する。 友達と協力し合い、一つのことを最後までやり遂げ、満足感や達成感を味わう。 	<p>身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</p>
③協同性	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人、友達に興味をもち、関わろうとする。 相手にも思いや考えがあることを知る。 友達と一緒に遊びや生活をする中で、一緒に過ごす心地よさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達とやりとりしながら、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちがわかったりする。 友達と同じ活動に参加し、みんなで一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士で思いや考えを共有し、遊びや活動を充実させていく。 応援したり、励まし合ったりすることで同じ目標をみんな達成する喜びを味わう。 	<p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。</p>
④道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で良いことや悪いことに気付く。 身近な物を大切にする。 集団生活に必要なきまりやルールの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを理解し、自分で良いことと悪いことを判断して行動する。 必要なルールを守って生活しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを調整し、折り合いを付けるようになる。 友達や周りに目を向け、思いやりや感謝の気持ちをもつ。 生活したり、遊んだりしやすいように自分達でルールや決まりを考える。 	<p>友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくれたり、守ったりするようになる。</p>
⑤社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 家族や地域の人に進んで挨拶ができるようになる。 地域のことに興味・関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に他者と関わりながら社会の中の事象をより深く楽しむ。 公共施設でのマナーを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割に責任をもって取り組むことで、人のためになることを知り、喜びを感じる。 公共施設でのマナーを守り、仲間と共同して利用する。 	<p>家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付く、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。</p>
⑥思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活を通していろいろな物事に興味や関心をもつ。 思ったことや感じたことを伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな体験を通して、想像したり、イメージを広げたりして試行錯誤する。 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞けるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 性質や仕組みに気付き、工夫して生活の中に活かそうとする。 考えたことを友達と伝え合ったり、話し合ったりして互いに理解する。 	<p>身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。</p>
⑦自然との関わり・生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> 身近な水、砂、土、草花や虫などに触れることを楽しむ。 自然の美しさや不思議に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節の移り変わりに気付く。 栽培や飼育を通じて、身近な動植物の成長や生体に興味、関心をもつ。 自然に親しんだり、自然物を使って工夫して遊ぶようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然について、絵本を見たり、図鑑で調べたりして関心を深める。 身近な動植物を労わったり、大切にしたりして命の尊さに気付くようになる。 	<p>自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。</p>
⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で、記号やマークに親しみ、形や大きさの違いなどに気付く。 遊びの中で、形や大きさの違いなどに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字や数、図形等に興味・関心をもつ。 様々な形や大きさの違いに気付き、形の違いや、面白さ不思議さを感じ興味、関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で数量を数えたり、比べたりする。 文字や数が生活に繋がっていることに気付き、読んだり、書いたりすることを楽しむ。 	<p>遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。</p>
⑨言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びに必要な言葉がわかり使おうとする。 絵本などを通して、言葉の面白さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思ったことや感じたことを言葉で伝える。 絵本や紙芝居などを通して、ストーリーや言葉の面白さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と考え言葉で伝え合い、遊びを発展させていく。 相手や場面によって使う言葉を選んで話す。 	<p>先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。</p>
⑩豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> 音楽やリズムなどに合わせて、体を動かすことを楽しむ。 きれいなものを見たり、聞いたりして、美しさや表現する楽しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことやイメージしたものを自分なりに工夫して作るようになる。 感じたことを友達や指導者などに、言葉で伝え合ったり、表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたり、感動したりして、作品を作る過程を楽しむ。 きれいなものや素晴らしいものを見たり聞いたりして、自分の表現に生かそうとする。 	<p>心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。</p>

13 吉田町幼児教育カリキュラム 「 ピーナッツ プロフィール 」

所属	
児童名	

所属	
児童名	

所属	
児童名	

所属	
児童名	

年少(年度末)
3歳児

年中(年度末)
4歳児

年長(年度末)
5歳児

小学校1年(年度末)
6歳

	ステップ		
	1	2	3
① 健康な心と体			
② 自立心			
③ 協同性			
④ 道徳性・規範意識の芽生え			
⑤ 社会生活との関わり			
⑥ 思考力の芽生え			
⑦ 自然との関わり・生命尊重			
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚			
⑨ 言葉による伝え合い			
⑩ 豊かな感性と表現			
記録者			印



	ステップ		
	1	2	3
① 健康な心と体			
② 自立心			
③ 協同性			
④ 道徳性・規範意識の芽生え			
⑤ 社会生活との関わり			
⑥ 思考力の芽生え			
⑦ 自然との関わり・生命尊重			
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚			
⑨ 言葉による伝え合い			
⑩ 豊かな感性と表現			
記録者			印

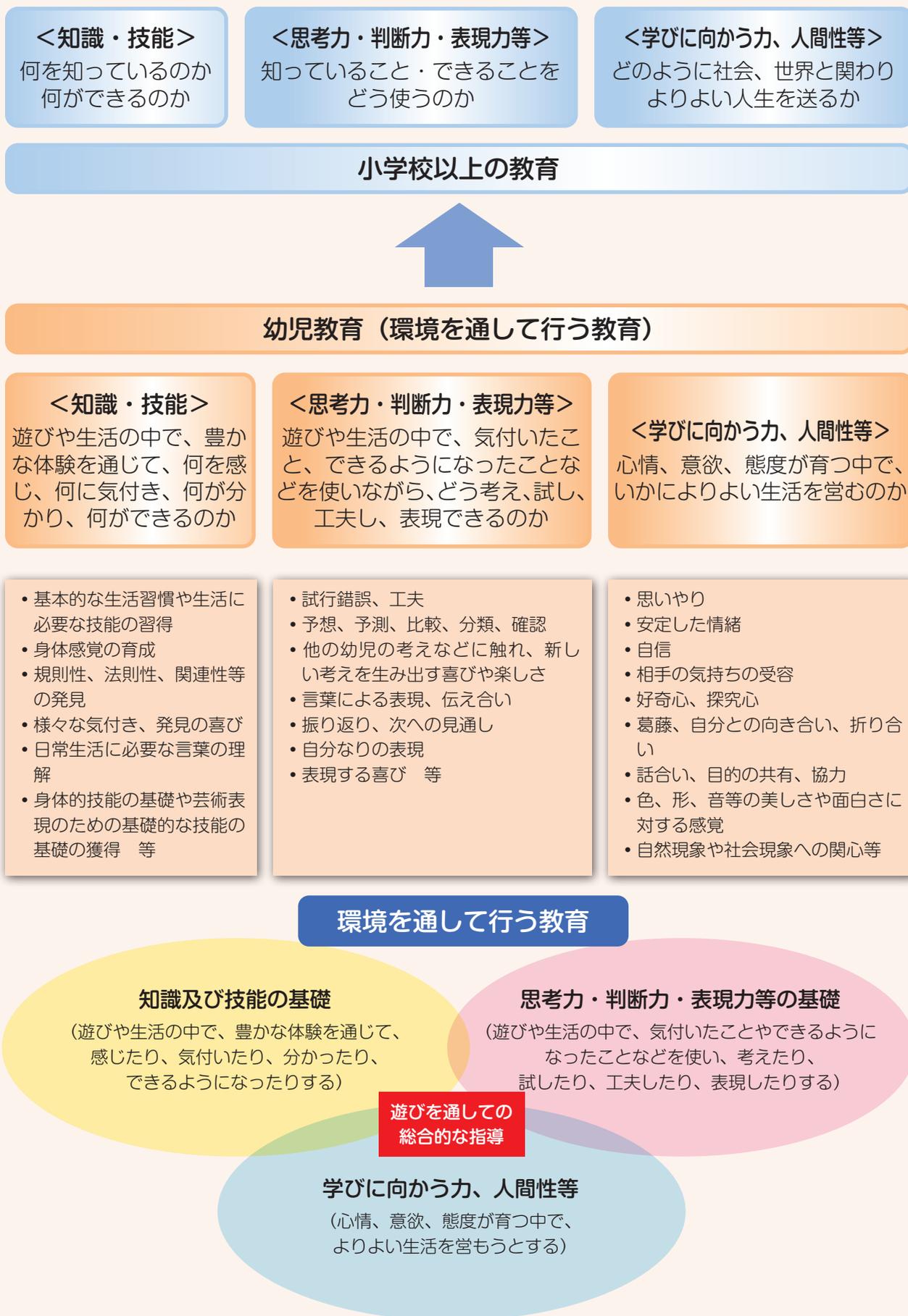


	ステップ		
	1	2	3
① 健康な心と体			
② 自立心			
③ 協同性			
④ 道徳性・規範意識の芽生え			
⑤ 社会生活との関わり			
⑥ 思考力の芽生え			
⑦ 自然との関わり・生命尊重			
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚			
⑨ 言葉による伝え合い			
⑩ 豊かな感性と表現			
記録者			印



	ステップ		
	1	2	3
① 健康な心と体			
② 自立心			
③ 協同性			
④ 道徳性・規範意識の芽生え			
⑤ 社会生活との関わり			
⑥ 思考力の芽生え			
⑦ 自然との関わり・生命尊重			
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚			
⑨ 言葉による伝え合い			
⑩ 豊かな感性と表現			
記録者			印

14 資質・能力の三つの柱に沿った、幼児教育において育みたい資質・能力の整理イメージ



15 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業について

(1) 教育課程研究指定校事業の概要

現行幼稚園教育要領、学習指導要領が実施されていることを踏まえ、新たな教育課程の編成、指導方法等が全国的かつ積極的に研究され、それらが定着するよう、学習指導要領のねらい等を踏まえた教育課程の編成、指導方法等の工夫改善のための実践研究及びその研究結果の全国的な普及を図るとともに、学習指導要領に基づく各教科の目標や内容に照らした児童生徒の学習の実現状況を把握し、今後の教育課程等の工夫改善を図ることを目的としている。

(2) 研究課題

ア 課題3「学校全体で取り組む研究課題」

イ (5)「校種間の連携による教育課程の編成、指導方法の工夫改善に関する実践研究」

(3) 対象校種

幼稚園、保育所、小学校

(4) 対象校

ア 幼稚園

学校法人川尻学園ちどり幼稚園、学校法人住吉学園ひばり幼稚園

イ 保育所等

吉田町立さくら保育園、吉田町立すみれ保育園、
吉田町立さゆり保育園、吉田町立わかば保育園、
吉田町立こども発達支援事業所

ウ 小学校

吉田町立住吉小学校、吉田町立中央小学校、吉田町立自彊小学校

(5) 研究期間

2年間（平成29年度、平成30年度）

(6) 研究主題

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続を目指して～吉田町幼児教育カリキュラムに基づいた教育の実践と検証，幼稚園・保育所等・小学校が連携を生かした吉田町スタートカリキュラムの作成～

(7) 研究主題設定の理由

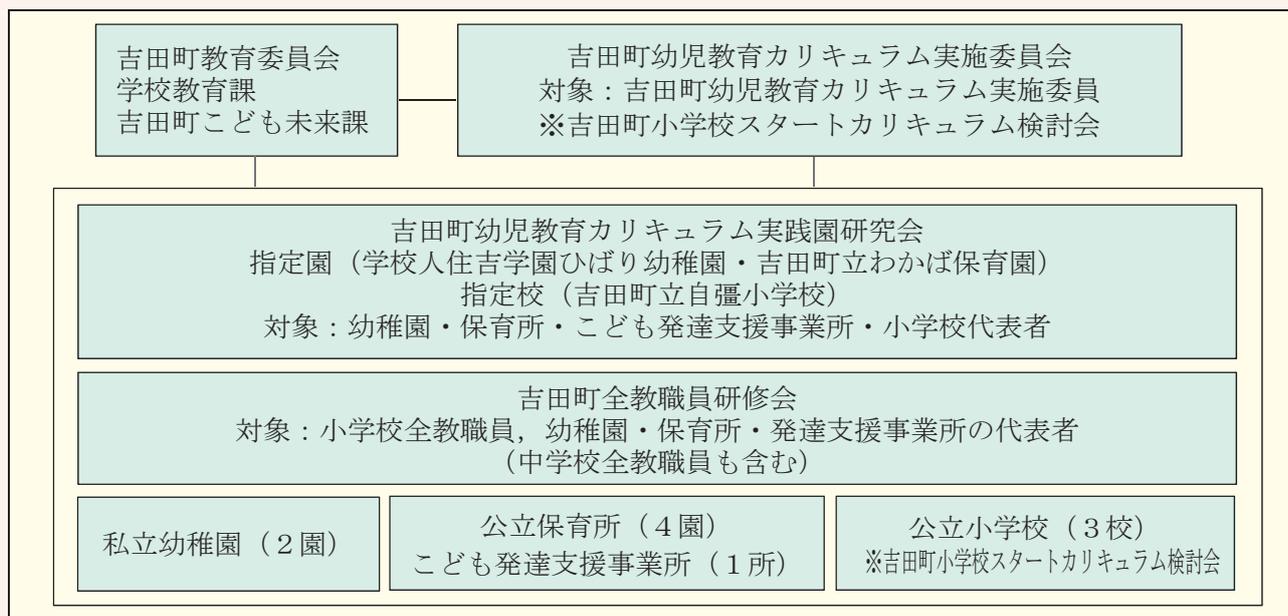
近年、吉田町では核家族化や共働き、ひとり親などの家庭の増加に伴い、家庭や地域の教育力が低下している。教育現場では、小学校入学時において、学校生活にうまく適応できず、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、教師の話が聞けないなどといった、いわゆる「小1プロブレム」といわれる状況が起きている。また、幼稚園・保育所等・小学校（以下、「幼保小」とする）の連携は十分ではなく、入学時の学級編成のための情報交換や幼児・児童による学校見学や遊び、イベントを中心とした交流に止まっている。

そこで、幼保小の教職員が、育てたい子供の姿を共有し、その実現に向けて、子供の発達と学びの連続性を踏まえた教育実践を展開する必要があると考え、平成28年度に「吉田町幼児教育カリキュラム」を作成した。

今後、共通したカリキュラムを基に、育てたい子供の姿を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続に資する教育課程や指導方法の在り方について探り、実践していきたい。

(8) 研究体制

ア 全体図



イ 校種間連携協議会の構成員・人数

吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会 (14人)	
学識経験者 (1人)	千葉大学教育学部教授 松寄洋子氏 (委員長 1人)
私立幼稚園関係者 (3人)	園長代表 (1人)・教諭 (2人)
公立保育所関係者 (6人)	園長代表 (1人)・保育士 (5人)
公立小学校関係者 (4人)	校長代表 (副委員長 1人)・教諭 (3人) ※吉田町小学校スタートカリキュラム検討会

(9) 平成 29 年度の主な取組と平成 30 年度の計画

平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「吉田町幼児教育講演会」における幼児教育に関する国の動向や町の方向性の周知 ・「吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会」におけるカリキュラムの実施状況確認と修正 ・「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」, 「吉田町全教職員研修会」における公開保育や公開授業の参観時の子供の姿からの適切な指導の在り方についての検討 ・「吉田町幼保・小連絡会」や子供の交流における情報交換や学級編成の検討 ・「吉田町幼児教育カリキュラム (教師・保育士用指導書)」作成
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「吉田町幼児教育カリキュラム (教師・保育士用指導書)」に基づいた教育実践及び分析 ・「吉田町スタートカリキュラム」(試行版) に基づいた教育実践及び分析 ・実施委員会における「吉田町スタートカリキュラム」の検討及び修正 (完成版の作成) ・実践園研究会の継続的な開催と各施設における職員研修の充実

(10) 「平成 29 年度の研究内容及び具体的な研究活動」、「研究の成果と課題」等については、「平成 29 年度研究成果中間報告書」(別紙資料) を参照。

都道府県・ 指定都市番号	22	都道府県・ 指定都市名	静岡県	研究課題番号・校種名	3(5)幼稚園・保育所・小学校
				領域名	校種間連携
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (5) 校種間の連携による教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (園児・児童・ 生徒数)	がっこうほうじんすみよしがくえん ようちえん 学校法人住吉学園ひばり幼稚園(188人) がっこうほうじんかわしりがくえん ようちえん 学校法人川尻学園ちどり幼稚園(132人) よしだちやうりつ ほいくえん 吉田町立さくら保育園(86人) よしだちやうりつ ほいくえん 吉田町立すみれ保育園(147人) よしだちやうりつ ほいくえん 吉田町立さゆり保育園(98人) よしだちやうりつ ほいくえん 吉田町立わかば保育園(155人) よしだちやうりつ ほったつしえんじぎやうしよ 吉田町立こども発達支援事業所(21人) よしだちやうりつすみよししょうがっこう 吉田町立住吉小学校(527人) よしだちやうりつちゆうおうしょうがっこう 吉田町立中央小学校(725人) よしだちやうりつじぎやうしょうがっこう 吉田町立自彊小学校(444人)		学校・地域の特色及び実態等 ・核家族化や共働き、ひとり親などの家庭の増加に伴う家庭や地域の教育力の低下 ・小学校入学時における学校生活への不適応等、「小1プロブレム」の常態化 ・子供の発達と学びの連続性を踏まえた教育実践を展開するための幼児教育カリキュラムの作成・実践 ・私立幼稚園、公立保育所等と公立小学校との連携のスタート		
所在地 (電話番号)	【幼稚園・小学校】吉田町教育委員会学校教育課 〒421-0395 静岡県榛原郡吉田町住吉 87 番地 (0548-33-2151) 【保育所等】吉田町こども未来課 〒421-0395 静岡県榛原郡吉田町住吉 87 番地 (0548-33-2153)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.town.yoshida.shizuoka.jp/3046.htm				
研究のキーワード	○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ○発達過程における育てたい子供の姿 ○子供の発達と学びの連続性 ○吉田町幼児教育カリキュラム ○吉田町スタートカリキュラム				
研究結果のポイント	○吉田町幼児教育カリキュラム、吉田町スタートカリキュラムを共有し実践したことにより、指導者の相互理解や連動した取組の推進など、校種間連携の強化が図られた。 ○「発達過程における育てたい子供の姿」を踏まえた教育計画の見直しにより、子供の実態把握を基にした教育活動や個に応じた支援が図られるなど、指導者の意識改革とともに活動や授業の改善が進んだ。 ○吉田町スタートカリキュラムの実践により、入学した子供達がスムーズに学校生活へ適応していくことができた。また、入学前からの保護者の十分な理解や全校体制での取組が、子供達の安心・成長・自立に相乗効果をもたらした。 ○幼保小の関係者が吉田町スタートカリキュラムの内容や構成について検討を行うことにより、吉田町幼児教育カリキュラムとの関連性を把握するとともに指導のつながりを確認し合うことができた。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続を目指して～吉田町幼児教育カリキュラムに基づいた教育の実践と検証、幼稚園・保育所等・小学校が連携を生かした吉田町スタートカリキュラムの作成～

(2) 研究主題設定の理由

近年、吉田町では核家族化や共働き、ひとり親などの家庭の増加に伴い、家庭や地域の教育力が低下している。教育現場では、小学校入学時において、学校生活にうまく適応できず、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、教師の話が聞けないなどといった、いわゆる「小1プロブレム」といわれる状況が起きている。また、幼稚園・保育所等・小学校（以下、「幼保小」とする）の連携は十分ではなく、入学時の学級編成のための情報交換や幼児・児童による学校見学や遊び、イベントを中心とした交流に止まっている。

そこで、幼保小の教職員が、育てたい子供の姿を共有し、その実現に向けて、子供の発達と学びの連続性を踏まえた教育実践を展開する必要があると考え、平成 28 年度に「吉田町幼児教育カリキュラム」を作成した。

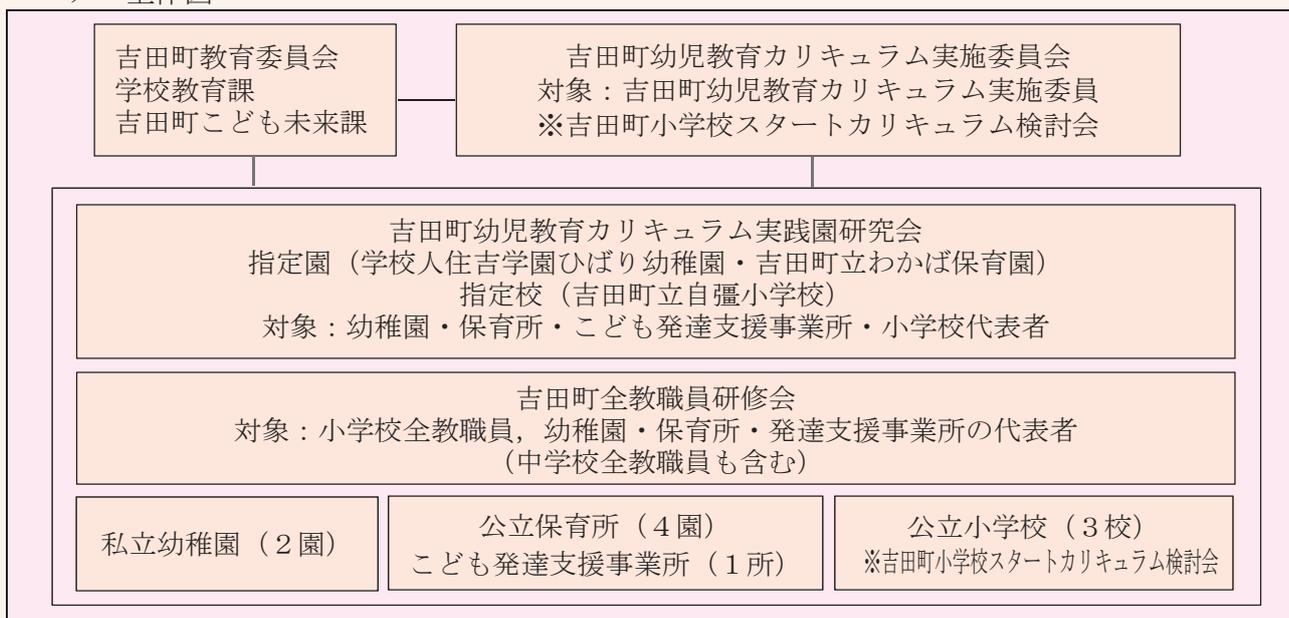
今後、共通したカリキュラムを基に、育てたい子供の姿を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続に資する教育課程や指導方法の在り方について探り、実践していきたい。

【吉田町幼児教育カリキュラム】

吉田町教育大綱における切れ目のない効果的な「つながりのある教育」の推進に向け、私立幼稚園、公立保育園、公立小学校の関係者で構成する「吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会」において作成した、吉田町内全ての幼児教育を行う施設、小学校に共通するカリキュラムである。作成の過程では、幼稚園教諭、保育士、小学校教員等（以下、「指導者」とする）の代表者が3歳時から1年生までの実践を持ち寄り、各校種保護者代表者と共に幼稚園教育要領等に示された「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、実際の子供の姿を抽出、検討するとともに、発達に即して整理した。その結果、3歳時から5歳児までの発達の過程を学年等の区分に抛らずに3ステップに分け、具体的な幼児の姿を示した「発達過程における育てたい子供の姿」（以下、「育てたい子供の姿」とする）及び指導の留意点（試案）としてまとめ、指導者が共有するとともに、子供一人一人の学びを的確に把握することを目指している。

(3) 研究体制

ア 全体図



イ 校種間連携協議会の構成員・人数

吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会 (14人)

学識経験者 (1人) 千葉大学教育学部教授 松寄洋子氏 (委員長 1人)

私立幼稚園関係者 (3人) 園長代表 (1人)・教諭 (2人)

公立保育所関係者 (6人) 園長代表 (1人)・保育士 (5人)

公立小学校関係者 (4人) 校長代表 (副委員長 1人)・教諭 (3人) ※吉田町小学校スタートカリキュラム検討会

(4) 2年間の主な取組

平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> 「吉田町幼児教育講演会」における幼児教育に関する国の動向や町の方向性の周知 「吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会」におけるカリキュラムの実施状況確認と修正 「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」、「吉田町全教職員研修会」における公開保育や公開授業の参観時の子供の姿からの適切な指導の在り方についての検討 「吉田町幼保・小連絡会」や子供の交流における情報交換や学級編成の検討 「吉田町幼児教育カリキュラム (教師・保育士用指導書)」作成
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> 「吉田町小学校スタートカリキュラム検討会」における「吉田町幼児教育カリキュラム」及び幼保小連携を生かした「吉田町スタートカリキュラム」(試行版)の作成 「吉田町幼児教育カリキュラム (教師・保育士用指導書)」に基づいた教育実践及び分析 「吉田町スタートカリキュラム」(試行版)に基づいた教育実践及び分析 実施委員会における「吉田町スタートカリキュラム」の検討及び修正 (完成版の作成) 実践園研究会の継続的な開催と各施設における職員研修の充実

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 吉田町幼児教育カリキュラム(以下、幼児教育カリキュラム)に基づいた実践及び分析
- イ 吉田町スタートカリキュラム(以下、スタートカリキュラム)に基づいた実践及び分析
- ウ 実施委員会及び実践園研究会の開催等による連携の推進

(2) 具体的な研究活動

ア 幼児教育カリキュラムに基づいた実践及び分析

(ア) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した教育実践の充実

各施設において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、教育等の実践（以下、活動）の構想を立てたり、指導の留意点を考えたりして指導案の作成を行った。

(イ) 「発達段階における育てたい子供の姿」を基にした子供の見取りの充実

活動の前に、「発達段階における育てたい子供の姿」を基にして子供の実態を把握したり、個に応じた支援について検討を行ったりした。

(ウ) 子供が主体性を発揮して活動を展開できるような子供の立場に立った保育の充実

自分で選び、遊べる環境や提供する玩具や素材等の見直しを行うとともに活動においては個々の発達を理解した声掛けを意識した。また、子供が経験してきた遊びやその展開・経過及びそれに伴う環境構成等の共有、引き継ぎなどを行った。

(エ) 各施設における「吉田町幼児教育カリキュラム（教師・保育士用指導書）」を活用した教育実践のまとめ

幼児教育カリキュラムを基に幼稚園や保育所等で実践した活動や授業について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「発達段階における育てたい子供の姿」を踏まえてまとめを行っている。また、各施設において、共通したカリキュラムを基に、幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続の在り方について、追究している。

イ スタートカリキュラムに基づいた実践及び分析

(ア) スタートカリキュラムの構成

スタートカリキュラムは、子供達が幼児教育で身に付けた力を十分に発揮しながら新しい学校生活に慣れていくために3つの時間で構成されている。具体的に、「なかよしタイム」は初めての学校生活での緊張や不安をほぐしたり体を動かしながら友達との仲を深めたりする時間、「わくわくタイム」は生活科として扱い合科的・関連的な授業を行い学校生活に慣れる時間、「ぐんぐんタイム」は主に教科を扱い学習への意欲を高めたり、学力をつけたりする時間としている。

(イ) 幼保小の連携を意識した授業改善等

「なかよしタイム」では、友達との交流として「ペアづくりやグループづくり」、「友達とのサイン交換」などの仲間づくりに加え、歌や運動など様々な活動を取り入れた。「わくわくタイム」では、生活科の「学校探検」で数探しを取り入れ、算数の学習に繋げたり、生活科で見つけた植物や虫などを題材にして、図工、国語に繋げたりした。「ぐんぐんタイム」では、まず、各教科の学習の仕方や活動の流れがわかるように、拡大文字や図、写真を用いてわかりやすく示し、説明を行った。また、平仮名を習う際に、友達の名前の中にある字や身近にある物の字を示したりするなど、子供達が興味を持てるよう工夫した。

また、学年合同の音楽科や生活科、体育科の授業、朝の支度や掃除の仕方の指導などにおける異学年との活動、教職員へのインタビューなど子供達にとって身近な人とのかわりを充実させる機会を設定した。

さらに、掃除や給食の仕方については、出身園での方法を聞きながら、よりよい方法やきまりなどを一緒に考える活動を行ったり、朝の支度や身の回りの整理整頓などは、幼児教育の延長上と捉え、培ってきたものを十分に活かした指導を行ったりするなど、幼児教育での育ちを活かしたり安心して自ら学びを広げたりできる活動や環境の設定に努めた。

(ウ) 評価と改善

4月末（保護者・児童）と7月末（児童）にアンケートを実施し、スタートカリキュラムの実施に伴う児童の成長や保護者の思いを把握した。アンケートの内容は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目と連動させ、アンケート調査結果を基に、スタートカリキュラムを改善したり、その後の児童への指導に活かしたりしている。4月末に実施したアンケートでは、「①学校に元気よく通っていますか。」「③小学校の友達と仲良くできていますか。」「④学校のきまりを守ろうとしていますか。」「⑤学校の教職員、協力してくださる地域の人など身近な人に慣れましたか。」の項目で90%以上の児童及び保護者が肯定的に捉えることができていた。

吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会や各校での幼保小連絡会での授業参観では、抽出席を中心に参加し、児童の表れをもとにスタートカリキュラムの構想の見直しや具体的な指導、支援の改善に活かしている。

(エ) その他

保護者への啓発としては、スタートカリキュラムについては、前年度の小学校一日体験入学で説明を行ったり、子供達の取組の様子を学年だよりで伝達したり、懇談会において成果や課題について説明したりした。また、教職員の理解を深めるために、新学習指導要領に関する校内研修にてスタートカリキュラムについて説明を行ったり、スタートカリキュラムに関する学年だよりを全教職員に随時配布したりした。

ウ 実施委員会及び実践園研究会の開催等による連携の推進

(ア) 幼保の視点を意識したスタートカリキュラムの作成

実施委員会において、スタートカリキュラムの内容や構成について、幼稚園、保育所等を含めた委員で検討を行うことで、相互の理解を深めるとともに加除修正が図られた。

(イ) 公開保育、公開授業の指導案の作成及び参観者の意識の共有

平成 29・30 年度に年 2 回開催した実践園研究会では、吉田町の指定園校における公開保育や公開授業の実施と実施委員会委員の参観を核とした研修を行った。指導者は、幼児教育カリキュラムやスタートカリキュラムを基に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「発達段階における育てたい子供の姿」の視点を意識して指導案の作成を行った。実施委員会では、事前に指導者が指導内容や構想、計画などを委員全員に説明し、意見交換を行い、意識の共有を図った。

(ウ) 公開保育、公開授業の参観を通じた事後研修会の充実

事後研修会では、公開保育、公開授業における指導者の手立ての有効性について、子供の表れを基に協議を行い、成果や課題を明確にした。特に、公開授業では、抽出児を決めて、子供の変容について幼保小の指導者が意見交換を行った。また、指導者の手立てや留意点については、松寄教授から、新学習指導要領、新幼稚園教育要領や新保育所保育指針で求めている教育や保育について直接指導や助言をいただいた。さらに、「町内他施設の環境や指導について知る」という視点からも研修の充実が図られている。

(エ) 教育研究協議会の充実

参加者の活発な意見交換が行われ、各施設における研究実践の進捗状況を相互に確認し合うことができた。また、教育課程調査官からは、公開保育や公開授業に止まらず、指定事業としての研究主題に基づき、その取組の状況から、研究の方向性並びに成果と課題などを明確に捉えることができるよう、直接指導や助言を得た。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

○幼児教育カリキュラム、スタートカリキュラムを共有した校種間連携の強化

幼保小の連携のための組織をつくり、幼児教育カリキュラム、スタートカリキュラムを作成し、それぞれに基づいて実践した結果、指導者の異校種及び他園校への相互理解が進むとともに、連動した取組が強化された。

○「発達段階における育てたい子供の姿」を踏まえた各施設における教育活動の充実

各施設では、「発達過程における育てたい子供の姿」を踏まえた教育計画の見直しにより、子供の実態把握を基にした教育活動や個に応じた支援が図られるなど、指導者の意識改革とともに活動や授業の改善が進んだ。特に、遊びに関しては、玩具や素材等を含めた環境の見直しや子供の経験、展開及び環境構成等の共有、引き継ぎを行ったことで、子供達が自分の思いを伝え合ったり、試行錯誤しながら友達と一緒に遊びを発展させる楽しさを感じたり、様々な物事に興味を持ち、発見したり工夫したりする姿が見られるようになってきた。

○スタートカリキュラム作成による研修の充実

実施委員がスタートカリキュラムの内容や構成について検討を行うことで、幼児教育カリキュラムとの関連性を把握するとともに指導のつながりを確認し合うことができた。また、幼児教育と小学校教育について理解を深めるとともに、その効果的な接続を追究するためのツールとして研修を深めることができている。

○スタートカリキュラムの実践による効果

子供達が幼児教育で身に付けた力を十分に発揮しながら新しい学校生活に慣れていくために「なかよしタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」の 3 つの時間で構成されたスタートカリキュラムの実践により、友達と仲良く元気に生活できたり、体験活動等において主体的な取組が見られたり、その主体性が他教科の学習にも表れたりするなど、入学した子供達がスムーズに学校生活へ適応していくことができた。また、入学前からの保護者の十分な理解や全校体制での取組が、子供達の安心・成長・自立に相乗効果をもたらしていると思われる。

●指導者の意識改革と資質向上を目指した研修体制の充実

本研究の取組により、研究実践への指導者の意識の高まりがあることから、継続的・計画的な研究会や実施委員会の開催とともに各園校からの参加者を拡張する必要がある。また、幼児教育の充実や幼保小の連携を図っている先進地区への視察等を拡張することで、吉田町内の指導者の資質向上を図っていきたい。

4 今後の取組

(1) 「吉田町幼児教育カリキュラム (概要版)」の改訂及び配布

(2) 幼児教育カリキュラムやスタートカリキュラムに基づいた教育実践について、分析結果を反映させた指導計画の作成

(3) 定期的な実施委員会の開催による幼保小の情報の交換及び共有

(4) 実践園研究会の継続的な開催と各施設における職員研修の充実

16 スタートカリキュラム（吉田町モデル）検討会の委員の紹介

No.	区 分	所 属 等	氏 名	備 考
1	学 識 経 験 者	幼児教育関係	松 寄 洋 子	千葉大学教授
2	小 学 校 関 係 者	小学校長代表	織 田 澄 夫	自 彊 小 学 校
3		住吉小学校教諭	森 下 寛 子	
4		中央小学校教諭	川 口 侑 希	平成 28・29 年度
5			鈴 木 南 帆	平成 30 年度
6		自 彊 小 学 校 教 諭	酒 井 友 美	吉田町プロジェクトリーダー

17 吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会の委員の紹介

No.	区 分	所 属 等	氏 名	備 考
1	学 識 経 験 者	幼児教育関係	松 寄 洋 子	千葉大学教授
2	幼 稚 園 関 係 者	幼稚園長代表	三 輪 戸 一 郎	ひばり幼稚園
3		ひばり幼稚園教諭	桂 好 美	
4		ちどり幼稚園教諭	高 島 朋 子	
5		保育園長代表	知 久 智 美	わかば保育園
6	保 育 園 関 係 者	こども発達支援事業所主任保育士	山 内 和 古	
7		さくら保育園主任保育士	大 石 智 子	
8		さゆり保育園主任保育士	大 塚 裕 之	
9		すみれ保育園主任保育士	大 川 原 千 尋	
10		わかば保育園主任保育士	島 野 慶 江	
11	小 学 校 関 係 者	小学校長代表	織 田 澄 夫	自 彊 小 学 校
12		住吉小学校教諭	森 下 寛 子	
13		中央小学校教諭	鈴 木 南 帆	
14		自 彊 小 学 校 教 諭	酒 井 友 美	吉田町プロジェクトリーダー

「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を踏まえた
幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続を目指して

スタートカリキュラム（吉田町モデル）

平成31年3月発行

吉田町・吉田町教育委員会（学校教育課）

住所 〒421-0395 静岡県榛原郡吉田町住吉87番地

電話番号0548-33-2151 ファクシミリ番号0548-33-2155

E-Mailアドレス gakkou@town.yoshida.shizuoka.jp

